

# 中期目標の達成状況報告書

令和元年 10 月現在

奈良教育大学

## 目 次

I. 法人の特徴	1
II. 中期目標ごとの自己評価	2
1 教育に関する目標	2
2 研究に関する目標	38
3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した 教育・研究に関する目標	46
4 その他の目標	53

## I 法人の特徴

### 大学の基本的な目標（中期目標前文）

奈良教育大学は、創立以来の学問・学芸を尊ぶ学風を継承し、学芸の理論とその応用とを教授・研究することにより、豊かな人間性と高い教養を備えた人材、特に有能な教員を養成して、我が国の教育の発展・向上に寄与することを社会的使命とする。

第3期中期目標期間においては、ミッションの再定義を踏まえ、地域の義務教育諸学校の教員養成機能に関して中心的役割を果たしていく。さらに、「学ぶ喜びを知り、自ら学び続ける」教員の養成を志向するユネスコスクールとしての実績を発展させ、持続可能な開発のための教育の推進拠点としてその理念に立った研究と実践を進めることにより地域の教育の発展・向上に寄与する。

奈良教育大学は、上記の基本的目標を踏まえ、特に以下を重点的に取り組む。

- 1 持続可能な社会の創造に寄与しうる教育を推進するため、実践的指導力、自ら課題を発見し協働的に探究できる能力及びグローバルな視野を備え新たな学びに対応できる能力を身につけ、その向上を目指して常に学び続ける教員を養成する。
- 2 研究の成果に基づいた教育及び実践的活動を推進するため、教育の基盤となる知の創出と教育的課題への対応を主軸とした研究ならびに奈良の地に根差した個性ある学際的教育研究をいっそう深化・発展させる。
- 3 教員研修ならびに地域の教育課題に対応するため、教育委員会や義務教育諸学校等との協働の取組を拡充し、地域の教育に対する支援を強化する。

### [★ 個性の伸長に向けた取組]

- 大学教員研修システムの構築（関連する中期計画 1－（2）－6－3）
- ESD（持続可能な開発のための教育）を核とした教員養成・研修の高度化  
（関連する中期計画 2－（1）－11－2）
- 理数教育再創生のための教員養成及び研修機能の拡充  
（関連する中期計画 2－（1）－11－2）
- 学校教育体系全体を視野に入れたインクルーシブ教育システムの構築と合理的配慮・ユニバーサルデザイン教育の開発（関連する中期計画 2－（1）－11－2）
- 地域融合型教育システム（地域の教育課題に組織的・協働的に取り組む）の構築  
（関連する中期計画 3－（1）－13－1）

### [◆ 戦略性が高く意欲的な目標・計画]

- 教育委員会、学校、地域と連携・協働して奈良県における学校教育の指導的役割を担う教員の養成の中心的役割を果たし、現職教員研修等を協働して実施するため、実践型教員養成機能の強化、教員養成の高度化、ならびに教育組織の再編などを進め、教育分野を中心に地域と融合する大学を目指す。  
（関連する中期計画 1－（2）－6－1、1－（4）－9－2）

## Ⅱ 中期目標ごとの自己評価

### 1 教育に関する目標(大項目)

#### (1)中項目1－(1)「教育内容及び教育の成果等」の達成状況の分析

中項目の内容	〔全学〕豊かな人間性と高い教養を備え、教員として生涯を通じて学び続ける姿勢を有し、実践的指導力を備え新たな学びに対応できる質の高い義務教育諸学校の教員を養成する。
--------	---

#### 〔小項目1－(1)－1の分析〕

小項目の内容	〔学士課程〕実践的指導力の育成のため、基礎的・基本的な知識と技能を踏まえた体系的な教育課程を編成・実施するとともに、課題探究型学習等を含む教育方法を充実させる。
--------	--

#### ○小項目1－(1)－1総括

##### 《関係する中期計画の実施状況》

実施状況の判定	自己判定の内訳 (件数)	該当する 中期計画番号
中期計画を実施し、優れた実績を上げている。	2	1-(1)-1-1 1-(1)-1-2
中期計画を実施している。	1	1-(1)-1-3
中期計画を十分に実施しているとはいえない。	0	
計	3	

中期計画1－(1)－1－1では、アンケート調査により確定した評価指標に基づいて第2期中期目標期間に整備された教職系列・実践系列・教科系列から構成される教育課程の評価を実施した。この評価結果及び教育職員免許法改正に対応したカリキュラムに関する研究成果を基に、新教育職員免許法、新学習指導要領に対応した体系的な新教育課程及びカリキュラム・フレームワーク(Cuffet)改定案を作成し、平成31(令和元)年度実施に向けた取組を着実に進めている。

中期計画1－(1)－1－2では、「「課題探究型学習」指導力を系統的に育成するためのガイドライン」を作成した。ICT活用能力の把握やアンケート調査の分析に基づいて、アクティブ・ラーニング実施のモデルプランやICT活用指導力プログラムについて議論するとともに、本学と奈良女子大学で共同開講する教養科目や各教科の指導法に関する科目において、課題探究型学習(アクティブ・ラーニングを含む)やICT活用能力育成を図るためのシラバス作成などに着手している。

中期計画1－(1)－1－3では、実践的指導力育成のための連携先の拡大や現状把握によるキャリア教育科目の質的・量的充実を図っている。また、スクールサポートシステムにおいては、その成果と課題を検証しつつ、改定プログラムの実施・点検を行っている。

以上のことから、中期計画を達成する予定である。

○特記事項（小項目1－(1)－1）

（優れた点）

- ・「課題探究型学習」指導力を系統的に育成するためのガイドライン」を作成した。（中期計画1－(1)－1－2）
- ・教育職員免許法改正に対応したカリキュラムの研究の実施（平成28年度教大協研究助成）により得られた成果を基に、新教育職員免許法、新学習指導要領に対応した新教育課程及びCuffet改定案を作成した。（中期計画1－(1)－1－1）

（特色ある点）

- ・奈良女子大学との「法人統合」を視野に入れ、両大学で共同開講する教養科目においてアクティブ・ラーニング実施のモデルプランやICT活用指導力プログラムの策定を試みている。（中期計画1－(1)－1－2）

（今後の課題）

- ・ 該当なし。

〔小項目1－(1)－1の下にある中期計画の分析〕

《中期計画1－(1)－1－1に係る状況》

中期計画の内容	実践的指導力の育成のため、第2期中期目標期間において整備した教職系列・実践系列・教科系列から構成される教育課程を学生の自己評価、卒業生調査などの評価指標を踏まえて改善する。
実施状況（実施予定を含む）の判定	<input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況（中期計画1－(1)－1－1）

(A) カリキュラム・フレームワーク（Cuffet）や教育課程についての認知状況アンケート調査、学生による自己評価実施状況調査、卒業時・修了時アンケート調査を実施するとともに、日本教育大学協会の研究助成を受け、カリキュラムの研究を行った（別添資料1-1-1-1①）。それらの成果を受けて、教育課程開発室内に「教育学部次期教育課程編成プロジェクトチーム」を設け、教育職員免許法及び学習指導要領の改正・改訂に対応した教育学部教育課程を作成した（別添資料1-1-1-1②）。また、Cuffet項目ならびに指標、及び成績評価基準のガイドライン等について、教育課程

開発室に設けたワーキンググループにより見直しを行い、Cuffet の改定を実施した（別添資料 1-1-1-1③）（別添資料 1-1-1-1④）。

<p>小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画 1－（1）－1－1）</p> <p>アンケート調査結果及び教育職員免許法改正に対応したカリキュラムの研究の成果を基に、新教育職員免許法、新学習指導要領に対応した教育課程の作成及び Cuffet の改定を行った。</p>
--

○平成 31（令和元）年度の実施予定（中期計画 1－（1）－1－1）

(A) 改定した Cuffet に基づく教育課程の点検・改善を継続して行うとともに、教職指導の改善（リフレクションウィークの見直しなど）を進める。

《中期計画 1－（1）－1－2に係る状況》

<p>中期計画の内容</p>	<p>課題探究型学習ならびに学生の主体的な学習の促進のため、その基礎となる教養教育の充実、アクティブ・ラーニングの展開、ならびに情報収集・活用・提示に資する ICT（情報通信技術）活用能力の向上に取り組む。</p>
<p>実施状況（実施予定を含む）の判定</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中期計画を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。</p>

○実施状況（中期計画 1－（1）－1－2）

(A) 「「課題探究型学習」指導力を系統的に育成するためのガイドライン」を作成し（別添資料 1-1-1-2①）、平成 31（令和元）年度から奈良女子大学と共同開講する教養科目「奈良と教育－ここはどこ？私は誰？－」において、「課題探究型学習」を取り入れたシラバスを作成した（別添資料 1-1-1-2②）。

(B) 教養科目及び各教科の指導法に関する科目等への課題探究型学習の導入を検討するため、学生自身の ICT 活用能力について調査を実施した（別添資料 1-1-1-2③）。アンケート調査の分析結果を踏まえて「教育学部次期教育課程編成プロジェクトチーム」（別添資料 1-1-1-2④）において、「各教科の指導法」に関する科目群の再編とともに、情報機器の活用及びアクティブ・ラーニングの導入方法について議論を行った（別添資料 1-1-1-2⑤）。

<p>小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画 1－（1）－1－2）</p> <p>「「課題探究型学習」指導力を系統的に育成するためのガイドライン」を作成した。また、学生の ICT 活用能力の把握やアンケート調査の分析に基づいて、アクティブ・ラーニング実施のモデルプランや ICT 活用指導力プログラムについて議論するとともに、</p>
---

本学と奈良女子大学との「法人統合」後に両大学で共同開講する教養科目や各教科の指導法に関する科目において、課題探究型学習（アクティブ・ラーニングを含む）や ICT 活用能力育成を図るためのシラバス作成などに着手した。

○平成 31（令和元）年度の実施予定（中期計画 1－（1）－1－2）

(A)「課題探究型学習」に係るこれまでの検討結果を踏まえ、奈良女子大学との協働実施による新設教養科目「奈良と教育」をそのモデルとして実施し、結果を検証する。

(B) ICT 活用能力を育成するために、これまでの検討結果を踏まえ、チェックリストなどを各教科の指導法に関する科目の担当者に示す。

《中期計画 1－（1）－1－3に係る状況》

中期計画の内容	自ら学び続ける姿勢の形成、教職への円滑な移行を促すため、キャリア教育を充実させる。とりわけ学生の実践的指導力の育成のため、地域教育委員会と協働したスクールサポートシステムを整備・拡充する。
実施状況（実施予定を含む）の判定	<input type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況（中期計画 1－（1）－1－3）

(A) キャリア教育科目である「学校支援実践」において、学生の資質能力調査(Student-EQ)（別添資料 1-1-1-3①）や授業担当者による現状の確認を行いつつ、実施場所となる連携先を増やした（奈良市教育委員会・木津川市教育委員会・京都府教育委員会）。

新教育課程で単位化する学校体験活動「学校フィールド演習Ⅰ」の令和 2 年度の授業開設に向けて、奈良市教育委員会との連携のもと、活動内容、派遣学生数、派遣期間等の具体について事前調査を実施した（別添資料 1-1-1-3②a, b）。

(B) スクールサポーター 1 級・2 級研修の成果と課題を検証し、この中間総括に基づいた改定プログラムを策定した（別添資料 1-1-1-3③a, b）。また、改定スクールサポーター 1 級・2 級研修会を実施・点検した。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画 1－（1）－1－3）

連携先の拡大や現状把握によるキャリア教育科目の質的・量的充実を図っている。また、スクールサポートシステムにおいては、その成果と課題を検証しつつ、改定プログラムの実施・点検をしており、地域の教育委員会と協働した取組を行っている。

○平成 31（令和元）年度の実施予定（中期計画 1－（1）－1－3）

(A) 奈良市立小中学校（奈良市教育委員会）及び木津川市の小学校（木津川市教育委員会、京都府教育委員会）をフィールドとする「学校支援実践」の実施を継続して行う。また、令和2年度からの新教育課程で単位化する「学校フィールド演習Ⅰ」の内容及び具体的な実施方法について、フィールド先となる附属学校園や奈良市立小・中学校（奈良市教育委員会）と協議し、実施方法を確定する。

(B) 「学校支援実践」の後継科目である「学校フィールド演習Ⅱ」の目標・内容・方法について決定する。また、改定スクールサポーター1級・2級研修を引き続き実施する。



[小項目 1 - (1) - 2 の分析]

小項目の内容	[学士課程] 学士（教育学）として必要な資質能力が身に付いたことを確認し、学士課程の質を保証する。
--------	---

○小項目 1 - (1) - 2 総括

《関係する中期計画の実施状況》

実施状況の判定	自己判定の内訳 (件数)	該当する 中期計画番号
中期計画を実施し、優れた実績を上げている。	0	
中期計画を実施している。	1	1-(1)-2-1
中期計画を十分に実施しているとはいえない。	0	
計	1	

中期計画 1 - (1) - 2 - 1 では、第 2 期中期目標期間に作成した成績評価基準とそのガイドラインに基づく成績評価の実施に関する調査・点検をしており、これらの結果や Cuffet の点検結果を基に、「成績評価に関する申し合わせ」を一部改正している。また、教育実習については新たな評価基準を策定し、学士（教育学）として必要な資質能力を保証する体制を整えた。平成 31（令和元）年度には、この評価基準の運用について調査・点検することを計画している。

以上のことから、中期計画を達成する予定である。

○特記事項（小項目 1 - (1) - 2）

（優れた点）

- ・ 該当なし。

（特色ある点）

- ・ 該当なし。

（今後の課題）

- ・ 該当なし。

[小項目 1 - (1) - 2 の下にある中期計画の分析]

《中期計画 1 - (1) - 2 - 1 に係る状況》

中期計画の内容	学士（教育学）として身につける資質能力基準を踏まえ、第 2 期中期目標期間に作成した成績評価基準とそのガイドラインに基づく成績評価を実施する。また、評価の適切性を平成 32 年度を目途に検証し、ガイドラインを見直す。
実施状況（実施）	<input type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。

予定を含む) の 判定	<input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。
----------------	--

○実施状況（中期計画 1－（1）－2－1）

(A) 第2期中期目標期間に作成した成績評価基準とそのガイドラインに基づく適切な成績評価が行われたかどうかの調査・点検を実施した（別添資料 1-1-2-1①）。これらの調査・点検の結果や現行 Cuffet の点検結果（別添資料 1-1-2-1②）をもとに、「成績評価基準のガイドライン」及び「成績評価に関する申し合わせ」の見直しを行った（別添資料 1-1-2-1③）。

(B) 学士（教育学）として必要な資質能力が身に付いたことを確認するための具体的方策（別添資料 1-1-2-1④a, b, c）として、附属幼稚園で教育実習の新たな評価基準を策定した。また、教職実践演習における「資質能力の確認」についての現状を整理し、改正案を作成した（別添資料 1-1-2-1⑤）。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画 1－（1）－2－1）

第2期中期目標期間に作成した成績評価基準とそのガイドラインに基づく成績評価の実施に関する調査・点検を実施し、これらの結果や Cuffet の点検結果を基に「成績評価に関する申し合わせ」を一部改正している。また、教育実習については、附属幼稚園で新たな評価基準を策定した。

○平成 31（令和元）年度の実施予定（中期計画 1－（1）－2－1）

(A) 平成 31（令和元）年度の新教育課程の実施（学年進行）に即して、各授業科目において成績評価基準とガイドラインに基づいて適切に評価できるよう周知徹底を図る。

(B) 附属学校園における教育実習の評価基準を引き続き策定するとともに、運用について調査・点検する。

[小項目1－(1)－3の分析]

小項目の内容	〔大学院課程〕専門職学位課程では、多様な学習者のニーズを踏まえつつ、奈良県教育委員会等との連携・協働により、学部卒業生を対象とした新人教員の養成、現職教員を対象にしたスクールリーダーの養成のため、確かな指導的理論を形成し、優れた実践力・展開力・応用力を育成する教育課程を編成し実施する。
--------	---

○小項目1－(1)－3 総括

≪関係する中期計画の実施状況≫

実施状況の判定	自己判定の内訳 (件数)	該当する 中期計画番号
中期計画を実施し、優れた実績を上げている。	0	
中期計画を実施している。	2	1-(1)-3-1 1-(1)-3-2
中期計画を十分に実施しているとはいえない。	0	
計	2	

中期計画1－(1)－3－1では、専門職学位課程（教職大学院）に特別支援教育コースを新設し4コース体制で新カリキュラムを実施している。この体制のもとで、大学院における学修に関する成果と課題の分析を行い、「養成する人材像」を基に大学院改組に向けた教育課程の改定を検討している。

中期計画1－(1)－3－2では、奈良の地域の特徴を生かした「へき地学校実習」を設置し、この取組による学びの整理と統括や、「実習科目」について大学院生の学修結果の調査や連携校からの評価等をもとに検討している。

以上のことから、中期計画を達成する予定である。

○特記事項（小項目1－(1)－3）

（優れた点）

- ・ 該当なし。

（特色ある点）

- ・ 専門職学位課程（教職大学院）の実習授業として奈良県内のへき地指定校における取組を「十津川サマースクール記録集」として総括した。（中期計画1－(1)－3－2）

（今後の課題）

- ・ 該当なし。

[小項目 1－(1)－3の下にある中期計画の分析]

《中期計画 1－(1)－3－1に係る状況》

中期計画の内容	大学院における学修と現職教員研修機能を踏まえ、「学校づくり」の視点に立ち、「養成する人材像」を基に履修コースの点検・整備・拡充を含む教育課程編成を行う。
実施状況（実施予定を含む）の判定	<input type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況（中期計画 1－(1)－3－1）

(A) 平成 28 年度から特別支援教育コースを新たに開設し、4 コース体制で新カリキュラムを実施している。4 コース体制カリキュラムの効果検証のため、大学院生を対象としたアンケート調査で履修コース・教育課程についての自己評価を実施した（別添資料 1-1-3-1①）。そして、これまでの専門職学位課程（教職大学院）の成果と課題の分析の結果を踏まえ、奈良県教育委員会と連携した「教職大学院教育連携協議会」で意見聴取し、教育課程改善のための検討を行った（別添資料 1-1-3-1②）。

また、大学院改組の進行状況を踏まえながら、教育課程の改定の準備として現時点での専門職学位課程における課題整理を行うとともに（別添資料 1-1-3-1③）、教職大学院会議において新教育課程の検討を行った（別添資料 1-1-3-1④）。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画 1－(1)－3－1）

専門職学位課程（教職大学院）に特別支援教育コースを新たに開設し、4 コース体制で新カリキュラムを実施している。この体制のもと大学院における学修に関する成果と課題の分析を行い、「養成する人材像」を基に大学院改組に向けた教育課程の改定を検討した。

○平成 31（令和元）年度の実施予定（中期計画 1－(1)－3－1）

(A) 大学の学部改組の状況に鑑み、奈良県教育委員会等と連携して、令和 4 年度から予定されている教職大学院への重点化に伴う専門職学位課程の教育課程（履修コースを含む）の理念とその内容を検討し、カリキュラム・フレームワークを明確にする。

《中期計画 1－(1)－3－2に係る状況》

中期計画の内容	新たな教育課題に対応できる実践的指導力を更に強化するため、平成 28 年度実施の「実習科目」について、実習の場、期間、学びの成果を中心に点検し、平成 32 年度を目途に改善する。
実施状況（実施予定を含む）の判定	<input type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施している。

判定	<input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。
----	--

○実施状況（中期計画 1－（1）－3－2）

(A) 「実習科目」に、必修科目「課題探究実習 I」「課題解決実習 I」及び選択科目「へき地学校実習」を設置、開講した(別添資料 1-1-3-2①)。

必修である実習科目群、特に「課題探究実習 I」、「課題解決実習 I」について実習を依頼している連携協力校の意見を踏まえて、実習の改善を進めた(別添資料 1-1-3-2②a, b, c)。また、「へき地学校実習」においては、大学院生の学びの整理と取組の総括を行い、「十津川サマースクール記録集」として冊子にまとめた(別添資料 1-1-3-2③)。得られた大学院生の学修結果や、学校(実践)実習委員会における連携校からの評価等をもとに、奈良県教育委員会等と「実習科目」の検討を行った(別添資料 1-1-3-2④a, b, c, d)。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画 1－（1）－3－2）

奈良の地域の特徴を生かして「実習科目」に「課題探究実習 I」「課題解決実習 I」及び「へき地学校実習」を設置する一方、この取組による学びの整理と統括を進めた。また、「実習科目」について院生の学修結果の調査や連携校からの評価等をもとに検討した。

○平成 31（令和元）年度の実施予定（中期計画 1－（1）－3－2）

(A) 教職大学院への重点化に伴う教育課程の改定(令和 4 年度)を視野に入れながら、現行の教育実習についての評価意見(連携協力校、大学院生等からの評価)をもとに、「実習科目」の改善を進める。

[小項目1－(1)－4の分析]

小項目の内容	修士課程では、専門領域に関する研究をもとに、教育関係諸科学の理論と実践を往還し、多様化する学校教育の現代的な課題にも対応できる実践的指導力を育成し、教科等の知識・技能を深める教育課程を編成し実施する。
--------	--

○小項目1－(1)－4総括

《関係する中期計画の実施状況》

実施状況の判定	自己判定の内訳 (件数)	該当する 中期計画番号
中期計画を実施し、優れた実績を上げている。	0	
中期計画を実施している。	2	1-(1)-4-1 1-(1)-4-2
中期計画を十分に実施しているとはいえない。	0	
計	2	

中期計画1－(1)－4－1では、修士課程での専門領域に関する研究が、多種多様な実践現場における実践的指導力及び教科等の知識・技能の学修につながっているか明らかにするため、アンケートにより分析した。

中期計画1－(1)－4－2では、「持続可能な開発のための教育」などの教科横断的な教育研究領域について実施状況を調査し、成果と課題を分析した。また、「奈良の特色を活かした教科横断的科目」についても調査し、修士課程の特色化の観点から教育課程の課題を抽出した。

以上のことから、中期計画を達成する予定である。

○特記事項（小項目1－(1)－4）

（優れた点）

- ・ 該当なし。

（特色ある点）

- ・ 該当なし。

（今後の課題）

- ・ 該当なし。

[小項目1－(1)－4の下にある中期計画の分析]

《中期計画1－(1)－4－1に係る状況》

中期計画の内容	多様化する学校教育の新たな教育課題にも対応できる実践的指導力
---------	--------------------------------

	の強化・充実のため、平成 28 年度実施の「実践的科目」ならびに「教育課題探究科目」の内容と編成を点検し、平成 32 年度を目途に教育課程を改善する。
実施状況（実施予定を含む）の判定	<input type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況（中期計画 1－（1）－4－1）

(A) 修士課程での専門領域に関する研究が、多種多様な実践現場における実践的指導力及び教科等の知識・技能の学修につながっているか明らかにするため、授業担当者及び大学院生を対象としたアンケートにより分析した（別添資料 1-1-4-1① a, b, c, d）。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画 1－（1）－4－1）

修士課程での専門領域に関する研究が、多種多様な実践現場における実践的指導力及び教科等の知識・技能の学修につながっているか明らかにするため、アンケートにより分析した。

○平成 31（令和元）年度の実施予定（中期計画 1－（1）－4－1）

(A) 大学院改組の進行に合わせ、平成 28 年度実施の「実践的科目」ならびに「教育課題探究科目」の取扱を含めた修士課程の新教育課程について引き続き検討する。

《中期計画 1－（1）－4－2に係る状況》

中期計画の内容	地域社会の要請に応える高度な研究力・探究力を有する教員の養成のため、教科の教材開発研究領域、ならびに奈良の特色を生かした「持続可能な開発のための教育」などの教科横断的な教育研究領域などの充実に向けた教育課程の整備を行う。
実施状況（実施予定を含む）の判定	<input type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況（中期計画 1－（1）－4－2）

(A) 「持続可能な開発のための教育」などの教科横断的な教育研究領域について実施状況を調査し、成果と課題を分析した（別添資料 1-1-4-2①a, b）。また、「各教科の教材開発科目」及び「奈良の特色を活かした教科横断的科目」について、修士課程の特色化の観点から教育的効果と課題を明らかにするために、授業担当者及び大学院生へのアンケート調査を実施した（別添資料 1-1-4-2①a, b）。それらの調査結果をもとに、教育課程開発室において教育課程の課題を抽出した（別添資料 1-1-4-2②a, b）。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画 1－（1）－4－2）

「持続可能な開発のための教育」などの教科横断的な教育研究領域について実施状況を調査し、成果と課題を分析するとともに、「奈良の特色を活かした教科横断的科目」についても調査し、修士課程の特色化の観点から教育課程の課題を抽出した。

○平成 31（令和元）年度の実施予定（中期計画 1－（1）－4－2）

(A) 大学院改組の進行に合わせて、修士課程における成果等を検証し、その結果を基に新教育課程について引き続き検討する。



[小項目 1 - (1) - 5 の分析]

小項目の内容	教職修士（専門職）及び修士（教育学）として必要な資質能力が身に付いたことを確認し、大学院課程の質を保証する。
--------	--

○小項目 1 - (1) - 5 総括

《関係する中期計画の実施状況》

実施状況の判定	自己判定の内訳 (件数)	該当する 中期計画番号
中期計画を実施し、優れた実績を上げている。	0	
中期計画を実施している。	1	1-(1)-5-1
中期計画を十分に実施しているとはいえない。	0	
計	1	

中期計画 1 - (1) - 5 - 1 では、成績評価基準の適切性に関する調査・点検や、成績評価基準とそのガイドラインに基づく適正な評価の実施に関する調査・点検をしており、これらの結果や Cuffet の点検結果を基に、「成績評価に関する申し合わせ」を一部改正している。大学院課程の質を保証する取組を順調に進めていることから、中期計画を達成する予定である。

○特記事項（小項目 1 - (1) - 5）

（優れた点）

- ・ 該当なし。

（特色ある点）

- ・ 該当なし。

（今後の課題）

- ・ 該当なし。

[小項目 1 - (1) - 5 の下にある中期計画の分析]

《中期計画 1 - (1) - 5 - 1 に係る状況》

中期計画の内容	教職修士（専門職）及び修士（教育学）として身につける資質能力基準を踏まえ、成績評価基準とそのガイドラインに基づく成績評価を実施する。また、評価の適切性を平成 32 年度を目途に検証し、ガイドラインを見直す。
実施状況（実施予定を含む）の判定	<input type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況（中期計画 1－（1）－5－1）

(A) 教職修士（専門職）及び修士（教育学）として身につける資質能力基準を踏まえた成績評価基準とそのガイドラインに基づく適切な成績評価が行われたかどうかの調査・点検を実施した（別添資料 1-1-5-1①）。これら調査・点検の結果や現行 Cuffet の点検結果（別添資料 1-1-5-1②）をもとに、「成績評価基準のガイドライン」及び「成績評価に関する申し合わせ」の見直しを行い（別添資料 1-1-5-1③）、専門職学位課程（教職大学院）の「学位研究報告書」の評価基準及び修士課程における課題研究並びに修士論文の評価基準の策定について検討した（別添資料 1-1-5-1④）。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画 1－（1）－5－1）

成績評価基準の適切性に関する調査・点検や、成績評価基準とそのガイドラインに基づく適正な評価の実施に関する調査・点検をし、これらの結果や Cuffet の点検結果を基に、「成績評価に関する申し合わせ」を一部改正している。

○平成 31（令和元）年度の実施予定（中期計画 1－（1）－5－1）

(A) 大学院改組の進行に合わせて、成績評価基準とそのガイドライン策定のための検討を行う。

(2) 中項目 1 - (2) 「教育の実施体制等」の達成状況の分析

[小項目 1 - (2) - 6 の分析]

小項目の内容	教育の実施体制の充実と教育環境の整備を図り、実践型教員養成・研修機能を強化する。
--------	--

○小項目 1 - (2) - 6 総括

《関係する中期計画の実施状況》

実施状況の判定	自己判定の内訳 (件数)	該当する 中期計画番号
中期計画を実施し、優れた実績を上げている。	2	1-(2)-6-3★ 1-(2)-6-4
中期計画を実施している。	3	1-(2)-6-1◆ 1-(2)-6-2 1-(2)-6-5
中期計画を十分に実施しているとはいえない。	0	
計	5	

★は「個性の伸長に向けた取組」

◆は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」

中期計画 1 - (2) - 6 - 1 では、専門職学位課程（教職大学院）への重点化と修士課程の特色化を図る大学院改組を見据え、学内講座・センターから意見を照会しつつ、構想を検討した。

中期計画 1 - (2) - 6 - 2 では、学生が身につけた資質能力を教員や学生自らが確認できるように、全学ポートフォリオシステムの改善や、説明会や研修会の開催、サポートデスクによる支援など、環境の整備・向上を図った。

中期計画 1 - (2) - 6 - 3 では、附属学校部運営委員会の下に「教育研究連携専門部会」を設置し、地域教育研究拠点と共同で、学校現場で指導経験のない教員を含めた全大学教員を対象とする教員養成教育に関する資質・能力を高めるための研修プログラム（「奈良教育大学教員のための研修プログラム」）を作成し、実施した。また、このプログラムに対する自己評価結果を Web 上で報告するシステムを構築した。さらに、「教育学部教員としての職能成長を支える大学新任教員向け FD プログラム」を開発し、研修会を行った。

中期計画 1 - (2) - 6 - 4 では、スクールサポーター 1 級・2 級の認定制度を実施し、ホームページにおいて学生向けの関連情報を京阪奈三教育大学で共有するとともに、学生向け教材として学校インターンシップに関わるビデオコンテンツを作成した。また、ICT 活用指導力向上のための養成・研修テキストの普及・活用を進めるとともに、利用者へのアンケート調査に基づき、研修教材を追加した。

中期計画 1 - (2) - 6 - 5 では、地域・教育連携室が中心となって、奈良県教育委

員会との連携協力に関する協議会のもと、新たに「教員研修部会」と「へき地教育部会」を設置した。また、複式学級や小規模学級指導について、へき地教育を課題とする学校を有する市町村との連携により、地域融合型教育システムの構築を進めた。さらに、京阪奈三教育大学連携により作成された研修テキストを活用し、教員対象の出前講座を実施するとともに、Web上にコンテンツを公開した。

以上のことから、中期計画を達成できる見込みである。

○特記事項（小項目1－（2）－6）

（優れた点）

- ・学校現場で指導経験のない教員を含めた全大学教員を対象とする教員養成教育に関する資質・能力を高めるための研修プログラム（「奈良教育大学教員のための研修プログラム」）を作成・実施し、このプログラムに対する自己評価結果をWeb上で報告するシステムを構築した。（中期計画1－（2）－6－3）
- ・京阪奈三教育大学連携推進事業によりICT活用指導力向上のための養成・研修テキスト、及び学校インターンシップに関するビデオコンテンツを作成し、京阪奈三教育大学で共有するとともに、Webページで公開するなど、全国で活用可能な研修教材を作成・提供した。（中期計画1－（2）－6－4）

（特色ある点）

- ・奈良県教育委員会との連携協力に関する協議会のもと、新たに「教員研修部会」と「へき地教育部会」を設置し、複式学級や小規模学級指導について、へき地教育を課題とする学校を有する市町村との連携により、地域融合型教育システムの構築を進めた。（中期計画1－（2）－6－5）

（今後の課題）

- ・教職大学院への重点化と修士課程の特色化を図る大学院改組を見据え、具体的な教育課程等の検討を行う必要がある。（中期計画1－（2）－6－1）

〔小項目1－（2）－6の下にある中期計画の分析〕

《中期計画1－（2）－6－1に係る状況》

中期計画の内容	大学院教育学研究科における実践型教員養成・研修機能をさらに強化するため、平成28年度の大学院改組を踏まえ、平成32年度を目途に専門職学位課程への重点化と修士課程の特色化を図る。（◆戦略性が高く意欲的な計画）
実施状況（実施予定を含む）の判定	<input type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況（中期計画1－（2）－6－1）

(A) 平成 28 年度の大学院改組を踏まえ、さらに専門職学位課程（教職大学院）への重点化及び修士課程の特色化を行うため、大学院改組準備委員会での検討結果を基に、平成 29 年度から大学院改組委員会において教育課程等を具体的に検討している（別添資料 1-2-6-1①a, b）。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画 1－（2）－6－1）

地域密着型大学のミッションに関わって、専門職学位課程（教職大学院）への重点化と修士課程の特色化を図る大学院改組を見据え、学内講座・センターからの意見を照会しつつ構想の検討を進めた。

○平成 31（令和元）年度の実施予定（中期計画 1－（2）－6－1）

(A) 専門職学位課程への重点化及び修士課程の特色化の方針に基づき、他大学との連携を考慮して大学院改組について引き続き検討を行う。

《中期計画 1－（2）－6－2 に係る状況》

中期計画の内容	学生が身につけた資質能力について教員や学生自らが確認できるようにするため、教学システム等を活用した学習成果の可視化環境を整備する。
実施状況（実施予定を含む）の判定	<input type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況（中期計画 1－（2）－6－2）

(A) 教員と学生自らが学びの成果を確認できるように、全学ポートフォリオシステムを改善し、活用のための説明会、サポートデスクによる支援、教員に対する研修会及び入力処理のサポート等を行うなど、環境の整備・向上を図った（別添資料 1-2-6-2①a, b, c）。それとともに、学習成果の可視化環境についての現状と課題を把握するために、実践系列科目において、全学ポートフォリオシステムの利用実態について調査・分析し、良好な評価を得られた（別添資料 1-2-6-2②a, b, c）。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画 1－（2）－6－2）

学生が身につけた資質能力について教員や学生自らが確認できるようにするため、全学ポートフォリオシステムを教員と学生が活用するための環境整備を行った。その利用実態の調査・分析結果からは、現状のシステムについての良好な評価が明らかになった。

○平成 31（令和元）年度の実施予定（中期計画 1－（2）－6－2）

(A) 全学ポートフォリオシステムの利用実態の調査・分析結果を踏まえて、必要に応

じて改善計画を策定し実施する。

《中期計画 1－(2)－6－3に係る状況》

中期計画の内容	実践型教員養成・研修機能を高めるため、附属学校部の下に教育研究連携部会を設置するなど、体制整備を行い、学校現場で指導経験のない大学教員が附属学校等の現場において授業観察、共同研究などの経験を重ねる組織的な取組を行う。(★個性の伸長に向けた取組)
実施状況(実施予定を含む)の判定	<input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況(中期計画 1－(2)－6－3)

(A) 附属学校部運営委員会の下に「教育研究連携専門部会」を設置し、地域教育研究拠点と共同で、学校現場で指導経験のない教員を含めた全大学教員を対象とする教員養成教育に関する資質・能力を高めるための研修プログラム(「奈良教育大学教員のための研修プログラム」)を作成・実施した。併せて、このプログラムについての自己評価結果を Web 上で報告するシステムを構築した(別添資料 1-2-6-3①a, b)。

このプログラムの開発・実施により、大学教員とりわけ教員養成大学教員が、学校現場における教育実践を深く理解し、各自の研究成果とともに教員養成と教員研修に貢献できる力量形成のための基礎を築いた。

(B) 大学教員の FD を担う FD 専門部会において、「教育学部教員としての職能成長を支える大学新任教員向け FD プログラム」の開発し、3 回の研修会を実施した(別添資料 1-2-6-3②a, b)。

このプログラムの開発・試行により、新任の教員養成大学教員が教員養成と教員研修に貢献できる力量形成のための基礎を築いた。

小項目の達成に向けて得られた実績(中期計画 1－(2)－6－3)

地域教育研究拠点と教育研究連携専門部会によって「奈良教育大学教員のための研修プログラム」を策定し、実施するとともに、研修の目標に対する自己評価結果を Web 上で報告できるシステムを構築した。

さらに、FD 専門部会において「教育学部教員としての職能成長を支える大学新任教員向け FD プログラム」を開発し、実施した。

○平成 31(令和元)年度の実施予定(中期計画 1－(2)－6－3)

(A) 「奈良教育大学教員のための研修プログラム」を継続して実施し、目標に対する自己評価結果を継続的に分析しながら、必要に応じてプログラムの改善を図る。

(B) 「教育学部教員としての職能成長を支える大学新任教員向け FD プログラム」の実

施結果を踏まえ、プログラムの改定の必要性について検討する。

《中期計画 1－(2)－6－4に係る状況》

中期計画の内容	京阪奈三教育大学の連携により教員養成研修の高度化と質保証、新たな学びに対応できる次世代教員養成及び研修の課題に協働して取り組み、三教育大学連携の拠点の一つである次世代教員養成センターにおいて、各大学の連携拠点が開発したプログラム等を点検実施し、その成果に基づき教員養成の機能強化を進める。特に三教育大学共同により具体的に取り組む課題を重点的に位置づけ、双方向遠隔授業等を活用した教育課程の連携を進め、全国的に活用可能なプログラムを開発提供する。
実施状況（実施予定を含む）の判定	<input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況（中期計画 1－(2)－6－4）

(A) スクールサポート事業においてスクールサポーター1級・2級の認定制度を実施し、ホームページを開設し学生向けの関連情報を京阪奈三教育大学で共有した。また学生向け教材として学校インターンシップに関わるビデオコンテンツを作成した（別添資料 1-2-6-4①a, b）。

さらに、教育支援人材認証協会、奈良県教育委員会などと協力して、スクールサポートによる学校インターンシップを学生に経験させるための研修プログラムを実施し、改善した（別添資料 1-2-6-4②）。

(B) ICT教育の推進・活性化事業において次世代教員養成センターが中心となり、ICT活用指導力向上のための養成・研修テキストの普及・活用を進めるとともに、研修テキスト利用者を対象としたアンケート調査結果によるニーズを踏まえ、研修教材を追加した（別添資料 1-2-6-4③a, b, c）。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画 1－(2)－6－4）

奈良教育大学のスクールサポート研修では、スクールサポーター1級、2級の認定制度を実施し、他大学の学生も参加して学びを共有した。

学生向け教材として作成したビデオコンテンツを Web ページで公開し、スクールサポート研修などにおいて活用した。

ICT活用指導力向上のための養成・研修テキストの普及・活用を進めるとともに、利用者を対象としたアンケート調査を行い、結果に基づいて研修教材を追加した。

○平成 31（令和元）年度の実施予定（中期計画 1－(2)－6－4）

(A) スクールサポート事業を通して得られた成果を、教員養成・研修に引き続き活用

する。

(B) ICT 活用指導力向上のための養成・研修テキストの普及・活用の取組によって得られた成果を、引き続き地域のニーズに対応して活用する。

《中期計画 1－(2)－6－5に係る状況》

中期計画の内容	ICT 活用、へき地教育等の課題について教員養成課程を有する奈良県内外の大学等との連携を進める。
実施状況（実施予定を含む）の判定	<input type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況（中期計画 1－(2)－6－5）

(A) 地域・教育連携室が中心となって、奈良県教育委員会との連携協力に関する協議会のもと、新たに「教員研修部会」及び「へき地教育部会」を設立し、奈良県におけるへき地教育の現状と課題を明らかにし、地域融合型教育システムの構築を進めた（別添資料 1-2-6-5①a, b）。

(B) 奈良県教育委員会受託の文部科学省委託「ICT を活用した教育推進自治体応援事業（ICT を活用した学びの推進プロジェクト）指導力パワーアップコース」に参画し、教員対象の研修を実施するほか、教員免許状更新講習において ICT 活用に関する講座を開講した（別添資料 1-2-6-5②a, b）。その一方、奈良県教育委員会受託の文部科学省委託「次世代の教育情報化推進事業（情報 活用能力の育成等に関する実践的調査研究）」に参画し、京阪奈三教育大学連携推進事業（文部科学省の国立大学改革強化推進補助金に選定（平成 24 年度～平成 29 年度））により作成された ICT 活用指導力向上のための養成・研修テキストを活用し、教員対象の出前講座を実施した（別添資料 1-2-6-5③ a, b）。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画 1－(2)－6－5）

奈良県教育委員会との連携協力に関する協議会のもとに新たに「教員研修部会」及び「へき地教育部会」を設立する一方、へき地教育を課題とする学校を有する市町村との連携により、地域融合型教育システムの構築を進めた。

ICT 活用指導力向上のための研修プログラム及び ICT 活用指導力向上のための養成・研修テキストを活用し、教員対象の研修講座等の機会に、活用・普及を図るとともに、Web 上にコンテンツを公開した。

○平成 31（令和元）年度の実施予定（中期計画 1－(2)－6－5）

(A) へき地教育を課題とする学校を有する市町村、学校関係者及び、教員養成課程を有する大学などとの連携を進め、へき地教育の充実に向けた検討を行う。



(B) ICT 活用について、奈良県教育委員会等と連携しながら、これまでに開発した研修プログラムを実施する。

(3) 中項目 1 - (3) 「学生への支援」の達成状況の分析

[小項目 1 - (3) - 7の分析]

小項目の内容	学生の主体的な学習を支援するとともに、多様なニーズに適合した学修支援を進める。
--------	---

○小項目 1 - (3) - 7 総括

《関係する中期計画の実施状況》

実施状況の判定	自己判定の内訳 (件数)	該当する 中期計画番号
中期計画を実施し、優れた実績を上げている。	2	1-(3)-7-2 1-(3)-7-3
中期計画を実施している。	2	1-(3)-7-1 1-(3)-7-4
中期計画を十分に実施しているとはいえない。	0	
計	4	

中期計画 1 - (3) - 7 - 1 では、授業やそれに連動した報告展、卒業・修了展覧会等に加え、講習会や教員研修での利用、地域への開放など、ラーニングコモンズや教育資料館等を多方面で活用する一方で、さらなる利用促進のための学習環境の整備や学外者の利用規則の改定、ならびにアンケート結果に基づく次年度以降の改善策の検討を行っている。

中期計画 1 - (3) - 7 - 2 では、ICT 設備等を利用した学生の学び支援を目的としたテキストの配布やコンテンツの充実により、教育委員会や現職教員による利用とともに、特に学生による子ども向けの活動等の企画・実施、学校現場での講師や操作補助等、中期計画の取組を着実に進め、学生の学びに繋げている。

中期計画 1 - (3) - 7 - 3 では、京阪奈三教育大学連携推進事業の資産である双方向遠隔授業システム等を活用し、三教育大学が連携して学生の主体的学習活動の機会を継続的に提供・支援している。課題の検討・改善も着実に進め、定番的な学習方法として定着してきている。

中期計画 1 - (3) - 7 - 4 では、通常の授業料免除可能額に大学独自の財源を加えて学生への経済的支援を拡充するとともに、海外協定大学への派遣留学生に対し大学独自の財源で継続的に支援した。加えてこれら支援策について検証を行うことで有効性、適切性の確認、改善を継続的に実施した。

以上のことから、中期計画を達成する予定である。

○特記事項 (小項目 1 - (3) - 7)

(優れた点)

- ・テキストの配布やコンテンツの充実により、ICT 設備等を利用した学生の学び支援に

活かすとともに、学生による子ども向けの活動等の企画・実施、学校現場での講師や操作補助等の活動に繋げた。(中期計画1-(3)-7-2)

- ・京阪奈三教育大学連携推進事業の資産である双方向遠隔授業システム等を有効活用し、三大学が連携して学生の主体的学習活動の機会を提供し支援するとともに、課題についても着実に改善を図った。(中期計画1-(3)-7-3)

(特色ある点)

- ・ICT設備等を活用した学生の学び支援のためのテキストやコンテンツを、教育委員会や現職教員も多数利用している。(中期計画1-(3)-7-2)

(今後の課題)

- ・該当なし。

[小項目1-(3)-7の下にある中期計画の分析]

《中期計画1-(3)-7-1に係る状況》

中期計画の内容	アクティブ・ラーニングの展開などにより、学生の主体的な学習を促進するため、ラーニングコモンズ等を公開授業、公開講座、学生の学びあいの場などとして活用する。
実施状況(実施予定を含む)の判定	<input type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況(中期計画1-(3)-7-1)

(A) 学習支援のためにラーニングコモンズ等を有効に活用する方法について検討し、活用事例について周知した結果、学生の自主学習のほか、授業やそれと連動した報告展や、講習会・教員研修、卒業・修了展覧会等で利用された。えほんのひろばについては、授業利用や研修会のほか、地域への開放を行った。教育資料館では平成29年度から常設展「新薬師寺旧境内展」を開いた(別添資料1-3-7-1①a~f)。

さらに、ラーニングコモンズ等の利用促進のため、模擬授業練習やグループワークに対応しやすい机・椅子を導入し、県内教育関係者のための利用規則を改定するとともに、平成30年度までにWindowsクラスルーム協議会との協同事業としてICT教育研修モデルルームを整備した(別添資料1-3-7-1②a, b, c)。一方、平成30年度に授業でラーニングコモンズ等を利用した教員に対して実施したアンケート結果に基づき、さらなる活用促進のための改善策について図書館運営委員会で検討した(別添資料1-3-7-1③)。

小項目の達成に向けて得られた実績(中期計画1-(3)-7-1)
---------------------------------

ラーニングコモンズ等については、授業やそれと連動した報告展、講習会・教員研修、卒業・修了展覧会等での利用とともに、地域への開放など、多方面で活用した。さらなる利用促進のため、学習環境の整備や学外者の利用規則を改定する一方、次年度以降に向け、利用した教員に対するアンケート結果を基に改善策を検討した。

○平成 31（令和元）年度の実施予定（中期計画 1－（3）－7－1）

(A) ホームページや掲示版等複数の情報源を使って、ラーニングコモンズ等の活用方法や事例及び施設利用に関する周知を図るとともに、利用に際して具体的な支援を行い、利用者のニーズを踏まえて学習環境の改善を図る。

≪中期計画 1－（3）－7－2 に係る状況≫

中期計画の内容	学生の情報活用能力の向上及び課題探究力の育成を図るため、ICT 設備等を利用した学びを支援するとともに、実際の学校現場で ICT を活用した教育や児童・生徒指導を行うニーズに対応したプログラムを展開する。
実施状況（実施予定を含む）の判定	<input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況（中期計画 1－（3）－7－2）

(A) 学生の学びを支援するため、ICT 活用指導力向上のための教員養成・研修テキストの配布や、支援サイトにおけるビデオ教材、スライド資料等のコンテンツの充実ならびに提供を行った（別添資料 1-3-7-2①）。また、子ども向けの 3D プリンタの活用やプログラミングの講習（公開講座や学校現場での出前講習）において、参加学生が、講習内容の企画、当日の講師及び操作補助を行った（別添資料 1-3-7-2②）。さらに、「教員の ICT 活用指導力チェックリスト」を用いて学生の ICT 活用指導力を調査し、その結果に基づき作成した自学自習用ユニット教材を用いた学習支援を実施した（別添資料 1-3-7-2③a, b）。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画 1－（3）－7－2）  
 ICT 設備等を利用した学生の学びを支援するために、テキストの配布やコンテンツの充実を図った。それらを教育委員会や現職教員も多数利用している。また、子ども向けの活動等を学生に企画・実施させるとともに、学校現場での講師や操作補助も行わせることで、着実に学生の学びに繋げている。

○平成 31（令和元）年度の実施予定（中期計画 1－（3）－7－2）

(A) 「ICT 活用指導力チェックリスト」を用いて学生の ICT 活用指導力調査を継続し、児童生徒の情報活用能力育成に資する ICT 活用実践の普及・支援を行う。

《中期計画1－(3)－7－3に係る状況》

中期計画の内容	学生が主体的に学修活動が行える機会を広く提供するため、京阪奈三教育大学の連携により学生主体の合同セミナー等を継続的に開催する。合同セミナーは、対面セミナーだけでなく、TV 会議システム（双方向遠隔授業システム）も活用し、学生自身が主体的に企画運営できるよう支援する。
実施状況（実施予定を含む）の判定	<input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況（中期計画1－(3)－7－3）

(A) 双方向遠隔授業システムを用いて京阪奈三教育大学の学生企画支援事業報告会の配信、三教育大学大学祭実行委員会の意見交換会の実施、奈良教育大学における三教育大学連携「学生主体セミナー」学生研修会の開催等、三教育大学が連携して学生が主体的に行う学修活動を継続的に実施してきた。（別添資料 1-3-7-3①）。一方で、学生企画活動支援事業の課題を整理し、支援事業及び内容の改善案を作成した（別添資料 1-3-7-3②）。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画1－(3)－7－3）

京阪奈三教育大学連携推進事業の資産である双方向遠隔授業システム等を利用し、三教育大学が連携して学生の主体的学習活動の機会を継続的に提供し、学生の活動を支援してきた。一方で、課題についても検討し改善に取り組んできた。

○平成 31（令和元）年度の実施予定（中期計画1－(3)－7－3）

(A) 京阪奈三教育大学合同セミナー等を引き続き実施する。また、学生企画活動支援事業については、学生への周知を図り、募集力を高めるためにポスター展示及び新入生オリエンテーションでの報告会を実施する。

《中期計画1－(3)－7－4に係る状況》

中期計画の内容	学生に対する経済的支援として、通常の授業料免除可能額に大学独自の財源を配分して授業料免除を実施するとともに、海外の協定大学への派遣留学に際して大学独自の財源で支援を実施する。
実施状況（実施予定を含む）の判定	<input type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況（中期計画1－（3）－7－4）

(A) 文部科学省から示された免除率による授業料免除額に、本学独自の財源を配分して授業料免除を実施した。（別添資料1-3-7-4①a, b）。

(B) 奈良教育大学海外派遣留学生支援奨学金支給規則（平成27年度制定）により、海外協定大学に派遣される学生、とりわけ国際教育交流、国際理解教育において活躍が期待される優秀な学生に対し、海外留学を継続して支援した（別添資料1-3-7-4②a, b）。また、奨学金支給学生への調査から、奨学金が有効活用され、金額も適切であることを確認した（別添資料1-3-7-4③）。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画1－（3）－7－4）

通常の授業料免除可能額に大学独自の財源を配分し、多くの学生に対して授業料免除を実施した。また、海外協定大学への派遣留学生にも、大学独自の財源で継続的に支援した。特に派遣留学生への支援については検証を行い、奨学金支給の有効性・適切性の確認を継続的に行った。

○平成31（令和元）年度の実施予定（中期計画1－（3）－7－4）

(A) 引き続き、学生の経済的支援を行うために授業料免除のための予算を措置する。

(B) 奈良教育大学海外派遣留学生支援奨学金支給規則に基づき、国際・学術交流基金より派遣留学生に奨学金を支給し、支援する。あわせて、継続的にその効果について調査する。

[小項目1－(3)－8の分析]

小項目の内容	教員就職に向けて、全学的な就職支援を充実させる。
--------	--------------------------

○小項目1－(3)－8総括

《関係する中期計画の実施状況》

実施状況の判定	自己判定の内訳 (件数)	該当する 中期計画番号
中期計画を実施し、優れた実績を上げている。	0	
中期計画を実施している。	2	1-(3)-8-1 1-(3)-8-2
中期計画を十分に実施しているとはいえない。	0	
計	2	

中期計画1－(3)－8－1では、学部1回生から大学院生まで、保護者の意識向上ガイダンスも含め、多くの教員就職支援策を講じる一方、自己評価により内容の充実・改善を図っており、数値目標達成に向け対策を継続的に実施している。

中期計画1－(3)－8－2では、学校訪問とともに教育委員会との情報交換により、卒業生・修了生の情報を把握・共有に取り組みつつ、教員採用試験の各種対策における卒業生優先枠を拡大して卒業生・修了者への支援を強化している。

以上のことから、中期計画を達成する予定である。

○特記事項(小項目1－(3)－8)

(優れた点)

- ・ 該当なし。

(特色ある点)

- ・ 数値目標達成のための対策プログラムの一つとして、新入生保護者向けガイダンスを実施し、学生本人のみならず保護者の意識向上を図っている。(中期計画1－(3)－8－1)

(今後の課題)

- ・ 学部卒業生は70%、専門職学位課程(教職大学院)修了者は90%、修士課程修了者は75%の教員就職率と、奈良県内小学校教員の占有率30%を目指し、さらに支援を続ける。(中期計画1－(3)－8－1)

[小項目1－(3)－8の下にある中期計画の分析]

《中期計画1－(3)－8－1に係る状況》

中期計画の内容	学部卒業生は70%、教職大学院修了者は90%、修士課程修了者は
---------	---------------------------------

	75%の教員就職率と、奈良県内小学校教員の占有率 30%を確保するため、入学から卒業修了にわたる学生への継続的な進路指導により教職への意識を高める。また、教育課程における学びに加え、教員採用試験に向けた支援として、模擬授業、模擬集団面接、模擬集団討論及び模擬試験など各種支援プログラムを実施する。
実施状況（実施予定を含む）の判定	<input type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況（中期計画1－（3）－8－1）

(A) 卒業・修了年次生の教員採用試験に向け、キャリア・アドバイザーによる相談・指導、面接対策課題の作成・配布と添削指導、メールマガジン発行、模擬試験・模擬面接（個別、集団）・模擬授業・模擬場面指導・直前対策講座・実技試験対策講座等、多岐にわたる支援プログラムを企画・実施した。それらの分析・評価を踏まえさらに支援プログラムを充実・改善している。（別添資料 1-3-8-1①a, b）

また、個々の学生には、キャリア・アドバイザーによる個別指導のほか、学部3回生及び大学院生向けの教員就職支援策を検討し、教採導入ガイダンス、進路個別相談、模擬試験、対策セミナー等を実施している。また、学部1、2回生には、新入生就職ガイダンス、新入生保護者向けガイダンス、2回生保護者向けガイダンス、教採過去問題対策サイトの整備・改善、教養科目の一部に含めたキャリア教育プログラム等を実施している（別添資料 1-3-8-1② a～g）。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画1－（3）－8－1）

学部1回生から大学院生まで、学生への個別対応も含め、就職支援プログラムを教員採用試験の内容に応じて多岐にわたり実施するとともに、自己評価により充実・改善を図っている。加えて保護者向けのガイダンスにより本人のみならず保護者の意識も高める等、目標数値達成への対策を継続的に講じている。

○平成31（令和元）年度の実施予定（中期計画1－（3）－8－1）

(A) 平成30年度に実施した教員採用試験対策プログラム、ガイダンスの参加者アンケート及び学生生活実態調査の結果（進路関係）の分析等を踏まえ、各種支援に加え、個々の学生に応じた対策の充実や学部1、2回生に向けた教職意識を高める授業を開講するとともに、各数値目標の達成に向けた対策を引き続き継続する。

《中期計画1－（3）－8－2に係る状況》

中期計画の内容	卒業生・修了者については、奈良県講師就職者の次年度受験や正規採用に向けた支援を強化するとともに、奈良県を中心とする新規採用者の勤務状況等の情報を各種支援プログラムの改善に活用する。
---------	--



実施状況（実施予定を含む）の判定	<input type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。
------------------	--

○実施状況（中期計画 1－（3）－8－2）

(A) 卒業生・修了者の正規採用を支援するため、県内学校訪問による情報把握、教員採用試験各種対策における卒業生優先枠の拡大、本学と各学校を結ぶ窓口としての卒業後支援システム「なっきょんネット」の設置・充実による教採各種対策への参加の呼びかけ等を実施する一方、奈良県教育委員会と継続的に教員就職希望者の希望内容に関する情報を共有するとともに、合格要因の分析と教員採用動向の把握に努めている（別添資料 1-3-8-2①a, b）。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画 1－（3）－8－2）

学校訪問等、卒業生・修了者の情報を把握したうえで、教員採用試験の各種対策における卒業生優先枠の拡大と、参加の呼び掛け等、卒業生・修了者への支援を強化している。一方、教育委員会と情報交換するとともに、教員採用試験支援プログラムを改善している。

○平成 31（令和元）年度の実施予定（中期計画 1－（3）－8－2）

(A) 奈良県内の学校訪問等の情報収集を充実させるとともに、教員就職に関する本学と各学校とを結ぶ窓口の周知を図る。また、各種教採対策について設置した「卒業生・修了者特別優先枠」の評価、改善を図る。

(4) 中項目 1 - (4) 「入学者選抜」の達成状況の分析

[小項目 1 - (4) - 9 の分析]

小項目の内容	〔学士課程〕本学学部で教育を受けるために必要な学力を有し、教職への強い意欲を持った者を受け入れる。
--------	---

○小項目 1 - (4) - 9 総括

《関係する中期計画の実施状況》

実施状況の判定	自己判定の内訳 (件数)	該当する 中期計画番号
中期計画を実施し、優れた実績を上げている。	2	1-(4)-9-1 1-(4)-9-2◆
中期計画を実施している。	0	
中期計画を十分に実施しているとはいえない。	0	
計	2	

◆は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」

中期計画 1 - (4) - 9 - 1 では、入試成績や学業成績、教員採用試験の結果等の相関を分析し、現行カリキュラムが学生の能力向上に機能していることを確認した。その一方で、教職への意欲・関心、教職に必要な学力・能力の観点から選抜方法の改善を検討し、アドミッションポリシー (AP) を改定し、それに即したアドミッション・オフィス (A0) 入試を立案した。また令和 2 年度から教職への強い意欲を持った編入学生の受け入れを決定した。

中期計画 1 - (4) - 9 - 2 では、教職への意欲・関心、教職に必要な学力・能力を多面的総合的に評価できる選抜方法として、令和 2 年度 A0 入試の導入を決定した。また、高大接続の一環として平成 30 年度から奈良県下で教職に就く強い意欲を持った高校生の育成への協力 (奈良県次世代教員養成塾) を始めた。

以上、地域の教育に貢献する人材を育成するという、戦略性が高く意欲的な計画の達成に向けて前進していることから、中期計画を達成する予定である。

なお、奈良県次世代教員養成塾は、文部科学省のグッドプラクティスに採択された。

○特記事項 (小項目 1 - (4) - 9)

(優れた点)

- ・これまでの入学者の入試成績や入学後の学業成績、試験区分ごとの教員採用率等のデータを分析することによって、小学校教員に求められる資質を再考して、A0 入試の導入を決定した。(中期計画 1 - (4) - 9 - 1)

(特色ある点)

- ・奈良県教育委員会と、本学を含む県下の国私立6大学が協力して次世代教員養成プログラムを運営し、高大接続の一環である奈良県次世代教員養成塾に主体的に参画した。(中期計画1-(4)-9-2)

(今後の課題)

- ・令和2年度以降はA0入試での入学者の学業成績や教職への意欲を追跡調査し、本学で教育を受けるために必要な学力と教職への強い意欲を持った者を選抜する方法を検証し続ける必要がある。(中期計画1-(4)-9-1)

[小項目1-(4)-9の下にある中期計画の分析]

《中期計画1-(4)-9-1に係る状況》

中期計画の内容	入学者の入試成績、入学後の学業成績等の分析に基づき、教職への意欲関心、教職に必要な学力能力を多面的総合的に評価できる選抜方法に向けた改善を行う。
実施状況(実施予定を含む)の判定	<input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況(中期計画1-(4)-9-1)

(A) これまでの入学者の入試成績、入学後の学業成績、入試区分ごとの就職状況等のデータ分析に基づき、APを改定した。また、それに即し、教職への意欲関心、教職に必要な学力・能力を評価する選抜方法の改善を検討し、A0入試の選考方法を公表した(別添資料1-4-9-1①)。それらを踏まえ令和2年度教育学部入学者選抜を見直し、公表した(別添資料1-4-9-1②)。また、令和2年度からの編入学学生の募集開始を公表した(別添資料1-4-9-1③)。

小項目の達成に向けて得られた実績(中期計画1-(4)-9-1)

入試成績と学業成績並びに就職状況等の分析結果を踏まえ、AP改訂と選抜方法を改善し、A0入試を立案・導入した。また、令和2年度からの編入学による学生募集の開始を公表した。

○平成31(令和元)年度の実施予定(中期計画1-(4)-9-1)

(A) AP、入学者の入試成績、入学後の学業成績のデータ等に基づき、教職への意欲関心、教職に必要な学力・能力、国の入試改革の動向等を踏まえて、令和3年度教育学部入学者選抜方法を決定する。

《中期計画1-(4)-9-2に係る状況》

中期計画の内容	奈良県教育委員会との協議を継続的に行うとともに、高大接続の一環として地域の高校との連携関係に基づいた学部の選抜方法を検討改善し、地域の教育に貢献する人材を育成する。(◆戦略性が高く意欲的な計画)
実施状況(実施予定を含む)の判定	<input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況(中期計画1-(4)-9-2)

(A) 平成28年度に奈良県教育委員会との連携協力に関する協議会の「高大接続部会」において、将来にわたり奈良県下の学校教員として活躍する強い意志を持つ者を対象としたAO入試の導入について協議した。3月教授会ではAO入試を令和2年度入試から導入することを決定した。

平成29年度には、AO入試検討ワーキンググループを設置して協議を重ね、9月教授会で募集定員(40名)を定め、1月・2月教授会で選抜方法等を承認し、AO入試の実施について公表した(別添資料1-4-9-2①a, b, c)。

(B) 平成29年度には、教職への強い意欲を持つ高校生を育成するため、奈良県教育委員会が実施する高校生版教職プログラムの開発に主体的に協力した。奈良県教育委員会と本学による次世代教員養成プログラム作業部会での検討結果とともに、奈良県下高等学校の予備調査結果も踏まえて次世代教員養成プログラム策定委員会が実施案を作成した。

平成30年度には、奈良県教育委員会と本学の他、県内に法人本部を置く教職課程をもつ大学による次世代教員養成プログラム実行委員会に参画し、プログラム生(高校生)を対象にした「奈良県次世代教員養成塾(前期プログラム)」を本学でも開講した(別添資料1-4-9-2②a, b)(別添資料1-4-9-2③)。

小項目の達成に向けて得られた実績(中期計画1-(4)-9-2)

選抜方法の改善について、AO入試を令和2年度入試から導入することを決定した。AO入試検討ワーキンググループを立ち上げ選抜方法等を検討し、教授会の承認を経てAO入試の実施について公表した。

一方で、平成29年度に作成・公表された、奈良県教育委員会による教職への強い意欲を持つ高校生の育成のための次世代教員養成プログラムの開発に主体的に協力した。そして平成30年度には本学と奈良県教育委員会のほか、奈良県下に本部を置く教職課程を有する大学(奈良女子大学、畿央大学、奈良学園大学、帝塚山大学、大和大学)が参画する次世代教員養成プログラム実行委員会が、全10回の「奈良県次世代教員養成塾(前期プログラム)」を開講し、そのうち、3回を本学が担当した。

○平成31(令和元)年度の実施予定(中期計画1-(4)-9-2)

(A) 令和2年度AO入試を実施する。

(B) 奈良県教育委員会が実施する「奈良県次世代教員養成塾」(前期プログラム)に協力する。

[小項目1－(4)－10の分析]

小項目の内容	〔大学院課程〕 本学大学院で教育を受けるために必要な学力を有し、高度専門職業人としての教員及びスクールリーダーを目指す者を受け入れる。
--------	---

○小項目1－(4)－10総括

《関係する中期計画の実施状況》

実施状況の判定	自己判定の内訳 (件数)	該当する 中期計画番号
中期計画を実施し、優れた実績を上げている。	0	
中期計画を実施している。	2	1-(4)-10-1 1-(4)-10-2
中期計画を十分に実施しているとはいえない。	0	
計	2	

中期計画1－(4)－10－1では、教職大学院への重点化を進めた場合の大学院修士及び専門職学位課程（教職大学院）の教育課程における課題整理を行った。

中期計画1－(4)－10－2では、現行の専門職学位課程（教職大学院）入学者の選抜区分別学業成績を分析した。

以上のことから、中期計画を達成する予定である。

○特記事項（小項目1－(4)－10）

（優れた点）

- ・ 該当なし。

（特色ある点）

- ・ 該当なし。

（今後の課題）

- ・ 修士課程及び専門職学位課程（教職大学院）を再編する大学院改組計画の方針を早期に定め、併せてディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー及び選抜方法を改定する必要がある。（中期計画1－(4)－10－1）

[小項目1－(4)－10の下にある中期計画の分析]

《中期計画1－(4)－10－1に係る状況》

中期計画の内容	平成31年度を目途に、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを改善し、それに基づく選抜方法を立案し実施する。
---------	---

実施状況（実施予定を含む）の判定	<input type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。
------------------	--

○実施状況（中期計画1－（4）－10－1）

(A) 大学院改組計画は未定であるが、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーを検討する準備作業として、現時点での大学院修士・専門職学位の両課程における課題整理を行った（別添資料1-4-10-1①）。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画1－（4）－10－1）

大学院のディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに関して教育課程開発室において、現時点での大学院修士・専門職学位の両課程における課題整理を行った。

○平成31（令和元）年度の実施予定（中期計画1－（4）－10－1）

(A) 大学院改組の進行に合わせ、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの検討を引き続き行う。

《中期計画1－（4）－10－2に係る状況》

中期計画の内容	「教員養成の高度化に関する連携協定」等を踏まえ、地域の大学との連携関係に基づいた大学院の選抜方法を改善する。
実施状況（実施予定を含む）の判定	<input type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況（中期計画1－（4）－10－2）

(A) 「教員養成の高度化に関する連携協定」等による大学院特別選抜（推薦入試）について入学者の成績（GPA）を分析した。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画1－（4）－10－2）

平成28・29年度の教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）入学者を選抜区分別に学業成績を分析した。

○平成31（令和元）年度の実施予定（中期計画1－（4）－10－2）

(A) 引き続き平成30年度教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）入学者についても選抜区分別に学業成績を分析し、「教員養成の高度化に関する連携協定」等による大学院特別選抜（推薦入試）の有効性を検証し、改善を検討する。

2 研究に関する目標(大項目)

(1)中項目2－(1)「研究水準及び研究の成果等」の達成状況分析

[小項目2－(1)－11の分析]

小項目の内容	教育の基盤となる知そのものの創出と教育的課題への対応を主軸とした研究を行い、教員養成大学として教育の発展に寄与する。
--------	--

○小項目2－(1)－11総括

《関係する中期計画の実施状況》

実施状況の判定	自己判定の内訳 (件数)	該当する 中期計画番号
中期計画を実施し、優れた実績を上げている。	2	2-(1)-11-1 2-(1)-11-2★
中期計画を実施している。	0	
中期計画を十分に実施しているとはいえない。	0	
計	2	

★は「個性の伸長に向けた取組」

中期計画2－(1)－11－1では、学術研究推進委員会が、教育の基盤となる知の創造と教育的課題への対応を主軸とした研究として「融合型教科専門教育による教員養成高度化の新展開プロジェクト」と「多様性理解のための教員養成・教職員研修カリキュラムの開発プロジェクト」を推進した。

中期計画2－(1)－11－2では、概算要求の機能強化経費（機能強化促進分）の3つのプロジェクト（戦略2）において、次世代教員養成センター、理数教育研究センター、特別支援教育研究センターを中心とする、ESD、理数教育、インクルーシブ教育それぞれの理論と実践に関する教育研究を総合的に行い、教育課題に対する先駆的研究を推進して学校現場の要請に答えてきた。これらのプロジェクトに学生を参画させて研究と教員養成を一体化させ、また、各プロジェクトの専門に応じた教員研修も行っている。

それに加えて、自然環境教育センター、国際交流留学センターはそれぞれの資源を活用した教育と研究を重ねる一方、センター横断型教育研究も進め、その成果を教員養成・教員研修に還元している。

以上のことから、中期計画を達成する予定である。

○特記事項（小項目2－(1)－11）

（優れた点）

- ・本学が、実践的で高度な教育人材の養成を行う、奈良の地に根差した個性ある学際的教育研究拠点として機能を発揮するため、概算要求の機能強化経費（機能強化促



進分)プロジェクト(戦略2)において、奈良の自然や文化、世界遺産等を通じたESD教育研究や、理数教育に関する奈良県下のへき地教育支援や高大接続、理数指導力高度化の推進、児童生徒、保護者、教員のニーズに応じた特別支援教育研究を総合的に推進している。なお、ESD及び理数教育に関するプロジェクトについては、従前からの優れた取組実績が法人の基幹的事業として評価され、平成30年度に基幹経費化が認められた。(中期計画2-(1)-11-2)

(特色ある点)

- ・教育の基盤となる知の創造に向けた「教科融合型研究」と教育的課題への対応を主軸とした「多様性理解のための研究」を教員の所属講座を横断する組織によって実施した。また、平成28年度から開始した研究の成果を平成31(令和元)年度教養科目(新規)として教員養成教育に還元している。(中期計画2-(1)-11-1)

(今後の課題)

- ・該当なし。

[小項目2-(1)-11の下にある中期計画の分析]

《中期計画2-(1)-11-1に係る状況》

中期計画の内容	教員養成大学として教育の発展に寄与するため、教育科学、教科教育学、教科内容学及び教科を構成する諸学問の研究分野で、教育の基盤となる質の高い研究を実施し、得られた成果を教員養成、教員研修に還元する。
実施状況(実施予定を含む)の判定	<input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況(中期計画2-(1)-11-1)

(A) 学術研究推進委員会が教員養成及び教員研修での実践に結びつく研究プロジェクトとして「融合型教科専門教育による教員養成高度化の新展開プロジェクト」「多様性理解のための教員養成・教職員研修カリキュラムの開発プロジェクト」の2つを立案し、実施した(別添資料2-1-11-1①a, b)。2つの研究プロジェクトは様々な専門分野の教員が構成員となって進められ、平成30年度には研究成果発表会を開催した(平成31年3月11日)(別添資料2-1-11-1②)。特に後者のプロジェクトでは、「教師のための多様性理解ハンドブック」を作成し(別添資料2-1-11-1③)、平成31(令和元)年度新設の教養科目「教師のための多様性理解」において、このハンドブックを教科書的に使いつつ研究成果を教員養成教育に還元している(別添資料2-1-11-1④)。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画2－（1）－11－1）

「融合型教科専門教育による教員養成高度化の新展開プロジェクト」と「多様性理解のための教員養成・教職員研修カリキュラムの開発プロジェクト」を立ち上げ、学長裁量経費で支援しながら研究を進めてきた。両プロジェクトで、学内での学術研究交流会や講演会を開催した。

○平成31（令和元）年度の実施予定（中期計画2－（1）－11－1）

(A) 引き続き教科融合型及び多様性理解のための研究・教育をさらに発展させるために、研究組織力の強化を図るとともに教育への還元方法の検討を行う。

《中期計画2－（1）－11－2に係る状況》

中期計画の内容	豊かな自然や地域文化、多数の世界遺産等を通じた「持続可能な開発のための教育」に関する研究、理数教育ならびに特別支援教育に関する研究など、奈良の地に根差した個性ある学際的研究とそれに基づく教育方法及び教材開発を推進し、得られた成果を教員養成、教員研修に還元する。（★個性の伸長に向けた取組）
実施状況（実施予定を含む）の判定	<input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況（中期計画2－（1）－11－2）

(A) 本学の戦略2（現代の教育的課題に対応するプロジェクトを組織し、その研究成果を発信、展開する。）として位置づけられている以下の3つの取組を継続的に実施した。

ESD に関しては、高度専門職業人の養成や専門教育機能の充実のために、学生対象の教育プログラム及び現職教員を対象とした研修プログラムを開発し、プログラムを継続的に実施するとともに、修得レベルに応じた ESD ティーチャー認証制度を確立した（別添資料 2-1-11-2①a, b, c）。地域の教育委員会や学校と連携し、現職教員や教員志望の学生を対象に、ESD に関する指導力の向上のため、連続セミナーや勉強会を継続的に実施している（別添資料 2-1-11-2②）。さらに、ユネスコスクール大学間ネットワークを作りつつ、平成 29 年度からは、近畿 ESD コンソーシアムを組織し、近畿地方における ESD 推進の拠点作りを進め、中心的役割を担っている（別添資料 2-1-11-2③）。

ESD を学ぶ学生の学校現場等への派遣や、学校の校内研修や授業研究等への講師派遣等によって ESD 実践を支援し、「持続可能な発展のための教育」を実践できる教員の養成」に寄与している。

理数教育に関しては、理数に関する高度な専門性と実践力を持った教員養成を目的とした教育プログラムを開発し、SST（スーパー・サイエンス・ティーチャー）認証制度を確立した（別添資料 2-1-11-2④a, b, c）。平成 17 年度より県内外の山間部、都市部の連携協力校、関西文化学術研究都市内の協力校における連携事業等を実施しており、学生の教育実践力の向上とともに、理数科を中心に児童・生徒の学力向上を支援してきた（別添資料 2-1-11-2⑤a, b, c）。また、連携校と協力し授業や研究指導等を通じて、高校生の研究力向上に寄与した（別添資料 2-1-11-2⑥）。

高エネルギー加速器研究機構（KEK）との共同事業は、国際レベルの最先端研究機関との極めて先進的な成功事例として定着し、研究者との交流及び学生の教育支援力を養成している（別添資料 2-1-11-2⑦a, b）。さらに、平成 28～30 年度には奈良県教育委員会と連携して中高生の科学研究実践活動推進プログラムを実施し、中・高校教員・生徒に対して研修や講習会等を開催し、生徒の研究力向上と教員の研修に寄与した（別添資料 2-1-11-2⑧）。

インクルーシブ教育に関しては、共生社会の形成に向けた教育（障害のある者となない者が共に学ぶ仕組み）推進のため、発達障害のある子どもの継続的な学習支援、及び現職教員向けの連続研修会を開催してきた（別添資料 2-1-11-2⑨）。また、個別対応として「発達相談・教育相談」を行ってきた（別添資料 2-1-11-2⑩）。

特に、学習障害児に対する様々なプログラムに学生や現職教員、保護者が参加することにより、教員養成や教員研修の機能を持たせている。また、平成 30 年度から、発達障害のある子どものソーシャル・スキル・トレーニングや余暇支援を目的とした活動を県内外で実施している（別添資料 2-1-11-2⑪）。

以上の取組においては、学生対象の教育プログラム及び現職教員対象の研修プログラム等を開発・実施しており、教員養成・教員研修において成果を上げている。

(B) 奈良の地に根差した教育・研究では、まず自然環境教育センター奈良実習園を拠点とした教育・研究活動がある。教育活動では、奈良実習園での栽培に関する授業への協力、附属学校園の ESD に関わる授業への教材提供や、地域貢献としての公開講座とその中での学生に対する教育実践指導などがある（別添資料 2-1-11-2⑫a, b, c）。研究活動では、奈良県の自然環境保全に関して、奈良県特有の大和の伝統野菜の栽培やニホンジカ調査事業の研修、地域の自然に関する環境教育研究などを実施してきた（別添資料 2-1-11-2⑬）。次に、奈良県が位置する内陸地域に特化した防災教育プログラム（別添資料 2-1-11-2⑭）について、様々な専門分野をもつ本学の教員や自然環境教育・理数教育研究・保健の 3 センターが関わって調査・研究・実践を進めている。さらに、国際交流留学センターは自然環境教育センターと協働で留学生の米作り体験学習を実施（別添資料 2-1-11-2⑮）するなど、奈良をテーマとした留学

生教育活動を推進している。日本人学生やへき地も含めた地域住民との異文化交流の活性化も視野に、地域と連携した山村部の学校訪問やホームステイ、理数教育研究センターの活動への参画なども行っており、成果をシンポジウムなどで発信している（別添資料 2-1-11-2⑩a, b）。これらは地域に根差した本学の個性ある教育・研究を教員養成や留学生教育全体に還元するものである。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画 2－（1）－11－2）

ESD に関しては、ESD ティーチャー認証制度を確立し、県内外の教育委員会や学校と連携し、全国に ESD ティーチャーを輩出しており、教員養成・教員研修に大きく貢献している。また、近畿 ESD コンソーシアムを組織し、ESD 推進の中心的な役割を担っている。そして、現職教員や教員志望の学生を対象に、ESD に関する指導力の向上を目的とした研修会・実践交流会等を実施しており、ESD を実践できる教員の養成、及びその普及に大きく貢献してきた。

理数教育に関しては、SST 認証制度を確立し、また、県内外の山間部、都市部の連携協力校等の連携事業を通じて、学生の教育実践力の向上とともに、理数科を中心に児童・生徒の学力向上を支援してきた。

教員養成系大学として全国で初めてとなる KEK との連携協定のもと、「高校生のための素粒子サイエンスキャンプ」(Belle Plus) を共催し、高校生の学びのサポートや講師陣へのアシストを通して、学生の教育実践力の向上を図っている。この連携事業は、全国的に類を見ない先進的な取組であり、参加者から高い評価を得ている。一方、平成 28～30 年度には奈良県教育委員会と連携して中高生の科学研究実践活動推進プログラムを実施し、中・高校の教員及び生徒を対象とした研修や講習会等を開催し、生徒の研究力向上と教員研修に貢献した。

インクルーシブ教育に関しては、地域の学校園や関係機関と連携した教育相談・発達相談を実施する一方で、ニーズの高まっている学習障害児に対する学習支援、学習困難のある子どもとその保護者向けの専門プログラム、また、発達障害のある子どものソーシャル・スキル・トレーニングや余暇支援を目的とした活動を県内外で実施した。さらに、教師向けプログラム「ティーチャートレーニングクラス」と現職教員向けの公開講座を開催し、通常学級の教員に対しても、発達障害や行動問題への対応法について研修を行った。

学習障害児に対する様々なプログラムに学生や現職教員、保護者が参加することにより、教員養成や教員研修の機能を持たせ、教員養成や教員研修に大きく貢献した。

奈良の地に根差した自然環境教育に関しては、自然環境教育センターが奈良実習園を活用して公開講座等を実施しつつ、大学や附属学校園の教育活動を支援している。そして各種プロジェクトや公開講座では学生の教育実践指導を行う一方、奈良県の自然

環境保全に資する研究も継続的に実施してきた。加えて、今後奈良県で発生が危惧される内陸型の自然災害に特化した防災教育プログラムについて、様々な専門分野をもつ本学の教員や自然環境教育・理数教育研究・保健の3センターが関わって調査・研究・実践を進めている。一方、奈良の地に根差した留学生教育では国際交流留学センターが核となって、教員養成大学におけるグローバル人材育成をテーマとしたシンポジウムの開催や、教育実践活動の成果発信、留学生と日本人学生、地域や学校との交流、学内他センターとの協働などを推進してきた。以上により、奈良の地に根ざした教員養成大学としての機能を強化してきた。

○平成 31（令和元）年度の実施予定（中期計画 2－（1）－11－2）

- (A) 本学の戦略に対応して、各センター等が取り組んできた実践例や研究プロジェクトによる研究成果を教員養成、教員研修に還元するシステムを検討する。
  
- (B) 各センター等が奈良の地に根ざして取り組んできた実践例や研究プロジェクトによる研究成果を教員養成、教員研修に還元するシステムを検討する。

(2)中項目2－(2)「研究実施体制等」の達成状況分析

[小項目2－(2)－12の分析]

小項目の内容	教員養成大学としての研究の質の向上と活性化のため、研究実施体制等を充実させる。
--------	---

○小項目2－(2)－12総括

《関係する中期計画の実施状況》

実施状況の判定	自己判定の内訳 (件数)	該当する 中期計画番号
中期計画を実施し、優れた実績を上げている。	0	
中期計画を実施している。	1	2-(2)-12-1
中期計画を十分に実施しているとはいえない。	0	
計	1	

中期計画2－(2)－12－1では、他大学の状況調査や学内アンケート調査によって基盤的研究費の重点的配分手法について検討を行い、さらにその配分手法変更後の科研費応募件数の増減等について分析を行った。

以上のことから、中期計画を達成する予定である。

○特記事項 (小項目2－(2)－12)

(優れた点)

- ・ 該当なし。

(特色ある点)

- ・ 該当なし。

(今後の課題)

- ・ 該当なし。

[小項目2－(2)－12の下にある中期計画の分析]

《中期計画2－(2)－12－1に係る状況》

中期計画の内容	学長のリーダーシップに基づき、研究成果が教員養成や地域の教育改善に寄与する取組やプロジェクトに研究資源を重点的に配分する等、研究実施体制と研究環境を整備する。
実施状況(実施予定を含む)の判定	<input type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況（中期計画 2－（2）－1 2－1）

(A) 基盤的研究費の重点的配分の方法について検討し、変更した（別添資料 2-2-12-1①）。それを受けて、科研費応募件数の増減等について分析を行い、重点的配分の方法を検討している（別添資料 2-2-12-1②）。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画 2－（2）－1 2－1）

基盤的研究費の重点的配分の方法について検討し、変更した。それを受けて、科研費応募件数の増減等について分析を行い、重点的配分方法の改善を検討している。

○平成 31（令和元）年度の実施予定（中期計画 2－（2）－1 2－1）

(A) 引き続き基盤的研究費の変更と科研費応募件数の増減等について分析を行うとともに、研究意欲向上に繋がる方策について検討を行う。

3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標（大項目）

[小項目3－（1）－13の分析]

小項目の内容	教育委員会や義務教育諸学校等と協力しながら、様々な分野の教員を擁する教育大学の特色を生かした地域への貢献を図る。
--------	--

○小項目3－（1）－13総括

《関係する中期計画の実施状況》

実施状況の判定	自己判定の内訳 (件数)	該当する 中期計画番号
中期計画を実施し、優れた実績を上げている。	2	3-(1)-13-1★ 3-(1)-13-2
中期計画を実施している。	2	3-(1)-13-3 3-(1)-13-4
中期計画を十分に実施しているとはいえない。	0	
計	4	

★は「個性の伸長に向けた取組」

中期計画3－（1）－13－1では、「教育連携協働オフィス」と地域連携室を統合して「地域・教育連携室」を設置した。これにより、教育委員会、NPO、民間団体等との協働がよりスムーズになり、本学の地域連携に係る機能が強化した。また、奈良県教育委員会との連携協力に関する協議会の下に、新たに「教員研修システム」と「へき地教育」に関する専門部会を置き、教育課題に積極的に取り組んでいる。その他にも、奈良県内外の教育委員会、教育センター等における集合研修・校内研修等を通じて、教育実践力の向上に貢献している。

中期計画3－（1）－13－2では、奈良県内大学等と協力し教員免許状更新講習を実施するとともに、大阪教育大学や京都教育大学と双方向遠隔授業システムを活用した講習や、防災に関する講習など、社会のニーズを踏まえた充実を進めている。また、公開講座においても、教員の労働環境改善や意識改革の議論を踏まえた講座や、実習園を活用した環境教育講座など、社会や受講生のニーズを反映した公開講座を開催している。高大連携についても、奈良県内高校の教育コースの支援や、奈良県教育委員会に協力する奈良県次世代教員養成塾への参画など、教員志望の高校生を支援するほか、県内の連携校と協力した出前授業などを積極的に進めている。

中期計画3－（1）－13－3では、スクールサポーター研修・認証制度や子供パートナー養成・認証制度により、サポーターの質を高めつつ、登録派遣を実施している。また、理数教育推進に関わる大和郡山・曾爾サテライト事業では、派遣学生の増員を求められるなど、順調に教育活動の支援が進んでいる。さらに、不登校など課題



を抱える児童生徒や、発達障害のある子どもの支援も行うなど、多彩な支援を実施している。

中期計画3-(1)-13-4では、保育士資格の取得特例制度に基づき、幼稚園教諭等を対象に、保育士資格取得のための特例講座を開講し、平成31(令和元)年度も開講を予定している

以上のことから、中期計画を達成する予定である。

○特記事項(小項目3-(1)-13)

(優れた点)

- ・双方向遠隔授業システムを活用し、若手教員の授業や授業後の研究協議等の視聴や質疑応答を通じて本学学生の教員就職への意欲を高めるとともに、大学教員から授業者への助言の機会を設けるなど、「養成」と「研修」の融合を進めている。(中期計画3-(1)-13-1)
- ・双方向遠隔授業システムを活用し、三教育大学間で教員免許状更新講習を実施している。また、ESDティーチャープログラムの全国的な展開やESDティーチャー認定証の授与により、参加者数の増加や研修参加教員の意欲向上につながった。(中期計画3-(1)-13-2)

(特色ある点)

- ・教育委員会、NPO、民間団体等と協働で運営する「教育連携協働オフィス」と地域連携室を統合した「地域・教育連携室」の設置により、地域連携に係る機能を強化した。(中期計画3-(1)-13-1)
- ・保育士資格を取得するための特例講座を、奈良市、帝塚山大学及び奈良佐保短期大学と連携して開講している。(中期計画3-(1)-13-4)

(今後の課題)

- ・該当なし。

[小項目3-(1)-13の下にある中期計画の分析]

《中期計画3-(1)-13-1に係る状況》

中期計画の内容	教育委員会と連携し、現職教員の研修等について大学が組織的に寄与する。とりわけ、奈良県教育委員会との連携により設置している専門部会(英語教育、ICT活用、高大接続)の取組を拡充することにより、教員養成大学として新たな教育課題に率先して取り組む。(★個性の伸長に向けた取組)
実施状況(実施予定を含む)の判定	<input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況（中期計画3－（1）－13－1）

(A) 教育委員会、NPO、民間団体等と協働で運営する「教育連携協働オフィス」を地域連携室と統合し新たに「地域・教育連携室」を設置し、本学の地域連携に係る機能を強化した（別添資料3-1-13-1①）。

(B) 奈良県教育委員会との連携協力に関する協議会のもとに、「英語教育」、「ICT教育」、「高大接続」の専門部会に加えて、「教員研修システム」と「へき地教育」に関する専門部会を新たに設置した（別添資料3-1-13-1②）。これらの専門部会の下で、奈良県教育委員会による教職への強い意欲を持った高校生を育成するための次世代教員養成プログラム実施案の作成と奈良県次世代教員養成塾への本学の参画（高大接続）や、京阪奈三教育大学で共同開発した研修テキストを用いた出前研修・校内研修（ICT教育）、英語パワーアップ講座（英語教育）、奈良県複式学級・小規模学級担任等研修会（へき地教育）、県内小学校（拠点校）の若手教員育成研修（教員研修）等さまざまな連携事業等を実施した（別添資料3-1-13-1③a, b, c, d, e）。さらに、双方向遠隔授業システムを活用し、若手教員の授業や授業後の研究協議等の視聴や質疑応答を通じて本学学生の教員就職への意欲を高めるとともに、大学教員から授業者への助言の機会を設けるなど、「養成」と「研修」の融合を進めてきた（別添資料3-1-13-1④）。この取組は、文部科学省のグッドプラクティスに採択されている。

(C) 奈良県内外の教育委員会、教育センター等における集合研修・校内研修等において、改訂学習指導要領のキーワードであるアクティブ・ラーニングやカリキュラム・マネジメントを含む各種指導や助言を行った（別添資料3-1-13-1⑤）。

以上の取組により、教育委員会、学校、地域と連携・協働した奈良県における学校教育の指導的役割を担う教員の養成や現職教員研修等の実施など、教育分野を中心に本学と地域との融合が順調に進んでいる。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画3－（1）－13－1）

新たに設置した地域・教育連携室に奈良県教育委員会や奈良市教育委員会、NPOに所属する者を室員として加え、これまで以上に本学周辺地域のニーズを発掘し、支援を行った。

奈良県教育委員会との連携協力に関する協議会の下に設置された5つの専門部会において、さまざまな教育課題に関する研修等を実施した。

各地域の教育委員会・学校等における教員研修において、アクティブ・ラーニングやカリキュラム・マネジメントの理論や実践を含む研究成果を還元することにより、地域の教育実践力の向上を支援してきた。

○平成31（令和元）年度の実施予定（中期計画3－（1）－13－1）

## 奈良教育大学 社会連携・社会貢献、地域

(A) 地域・教育連携室において、学外室員と学内室員との間の情報交換を促進し、専門部会（英語教育、ICT教育、高大接続、教員研修教育、へき地教育）による教員養成・研修機能を強化するための連携事業の実施状況を点検する。

(B) 「地域融合型教育システム」の構築状況を把握し、課題を整理する。

(C) 地域の教育実践力の向上を引き続き支援する。

### 《中期計画3－（1）－13－2に係る状況》

中期計画の内容	本学の特色や教育研究の成果を生かして、社会や受講生のニーズを反映したテーマ内容とした教員免許状更新講習や公開講座及び高大連携を含む連携事業等を実施する。
実施状況（実施予定を含む）の判定	<input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

### ○実施状況（中期計画3－（1）－13－2）

(A) 奈良県教育委員会や奈良県内大学等（畿央大学、天理大学、奈良学園大学、奈良佐保短期大学、奈良保育学院、国立曽爾青少年自然の家、奈良県立野外活動センター）と連携して、教員免許状更新講習を実施し、奈良県内の講習のとりまとめを行っている（別添資料3-1-13-2①）。また、双方向遠隔授業システムを活用し、大阪教育大学と京都教育大学とも連携して講習を実施している（別添資料3-1-13-2②）。さらに、「奈良の自然と災害を知って子供をまもる～防災教育入門～」を開講するなど、社会のニーズを踏まえ講習の充実を図っている（別添資料3-1-13-2③）。

(B) 現職教職員を対象とした教育セミナー、専門研修、卒業生及び現職教職員を対象とした「教師のための教育実践セミナー」や、奈良県教育委員会が実施している認定講習への講師派遣、奈良県立教育研究所から要請された「教職員のための夏の公開講座」などを実施している（別添資料3-1-13-2④a, b, c）。また、文部科学省の委託事業として、中学校二種免許（英語）と特別支援教育に関する科目についての教育職員免許法認定講習を実施している（別添資料3-1-13-2⑤a, b）。他にも、実習園を活用した公開講座や、ESD連続セミナー及びESDティーチャープログラム実施の拡大、教員の労働環境改善及び意識改革の議論を踏まえ、新たに教員のためのリトリート（カラダとこころのリフレッシュ講座）を実施するなど、本学の特色や教育研究の成果を活かした公開講座等を行っている（別添資料3-1-13-2⑥a, b, c, d）。

(C) 奈良県内高校の教育コースの支援や、県立奈良高校、県立山辺高校、県立青翔中学校・高等学校との協力事業、奈良県教育委員会が実施する次世代教員プログラムに

## 奈良教育大学 社会連携・社会貢献、地域

おける奈良県次世代教員養成塾への参画などを行った(別添資料 3-1-13-2⑦a, b, c)。特に、研究指導した県立青翔高校生は日本物理学会 Jr. セッションポスター発表で優秀賞を受賞し、また、奈良県次世代教員養成塾への参画は文部科学省のグッドプラクティスに採択された。

小項目の達成に向けて得られた実績(中期計画 3-(1)-13-2)

教員免許状更新講習を着実に実施するとともに、防災教育に関する講習を新たに開講するなど、社会のニーズを踏まえ講習の充実を図っている。また、本学の実習園を活用した公開講座や、教員の労働環境改善及び意識改革の議論を踏まえた公開講座を実施するなど、本学の特色や教育研究の成果を生かした公開講座等を行っている。さらに、ESD 連続セミナーでは開催場所を拡大し、ESD ティーチャー認定者数が増加するなど、研修の充実や参加する教員の意欲向上が見られる。

県内高校の教育コースの支援や、県内高校との協力事業、奈良県教育委員会が実施する次世代教員プログラムへの参画など、高大連携を進めている。

○平成 31(令和元)年度の実施予定(中期計画 3-(1)-13-2)

(A) 引き続き奈良県教育委員会や奈良県内大学等と連携して教員免許状更新講習を実施するとともに、奈良県内の講習のとりまとめを行う。

(B) 本学の特色や教育研究の成果を生かした公開講座を実施するとともに、事後アンケートを活用し、課題を整理する。

(C) 奈良県内高校の教育活動を支援するなど、継続的に高大連携の事業を実施する。

《中期計画 3-(1)-13-3に係る状況》

中期計画の内容	教育委員会等と連携し、スクールサポートなど学生による教育支援活動を充実させ、地域の公立学校等の教育活動の円滑な実施を支援する。
実施状況(実施予定を含む)の判定	<input type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況(中期計画 3-(1)-13-3)

(A) 奈良市、神戸市、京都府等と連携し、スクールサポーター(学校活動等支援ボランティア)の登録派遣事業を実施する一方、より質の高いサポーターを派遣するため、スクールサポーター研修・認証制度(1級及び2級)と子どもパートナー養成・認証制度を運営・実施し、さらに受講者の要望を踏まえて研修制度の改善も行っている(別添資料 3-1-13-3①a, b, c)。

(B) 都市部（大和郡山サテライト事業）や山村部（曽爾サテライト事業）の小・中学校における通年の理数科教育実践を通じて、都市部の大規模校やへき地の小規模校が抱える問題などを把握しながら、理数科を中心とした学力向上支援を継続的に行っている（別添資料 3-1-13-3②a, b）。また、新たに地域連携協定書を結んだ五條市でも「サイエンス・スクール イン五條」を実施している（別添資料 3-1-13-3③）。

(C) 本学の施設である「寧楽館」（ねいらくかん）を活用した不登校などの小・中学生のための居場所・学習支援や、「不登校・引きこもりの当事者がまったり語り合う会」を開催している（別添資料 3-1-13-3④）。発達障害のある子どもへの継続的な学習支援として「寺子屋」を開催するほか、「発達障害のある子どものための学習支援-夏休み宿題お助けプロジェクト」を開催している（別添資料 3-1-13-3⑤a, b）。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画 3-（1）-13-3）

スクールサポーター研修・認証制度と子供パートナー養成・認証制度により、サポーターの質を高めるとともに、研修受講者の要望を踏まえて研修制度も改善し、サポーターを派遣している。

理数教育に関する大和郡山サテライト事業や曽爾サテライト事業では派遣学生の増員の要望が寄せられるなど事業が順調に進んでいるほか、五條市など新たに連携協定を締結するなど支援活動は順調に拡大している。

不登校などの課題を抱える児童生徒の居場所「ねいらく」の利用者は増加している。継続的な学習支援に加えて、「発達障害のある子どものための学習支援-夏休み宿題お助けプロジェクト」では、本学学生や現職教員を参加させることにより、教育や研修の役割も持たせている。

○平成 31（令和元）年度の実施予定（中期計画 3-（1）-13-3）

(A) 奈良市教育委員会と連携して、スクールサポーター研修・認証制度を引き続き実施する。

(B) 教育委員会等と連携し、スクールサポートなど学生による教育支援活動を充実させ、地域の公立学校等の教育活動の円滑な実施を引き続き支援する。

(C) 引き続き、不登校や発達障害など課題のある子どもの支援を行う。

《中期計画 3-（1）-13-4に係る状況》

中期計画の内容	人材育成と地域において子どもが健やかに育成される環境の整備に寄与するため、近隣大学・短期大学ならびに教育委員会と連携協力して、保育士資格取得のための特例科目を平成 31 年度まで開講する。
---------	--

実施状況（実施予定を含む）の判定	<input type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。
------------------	--

○実施状況（中期計画 3－（1）－13－4）

(A) 保育士資格取得のための特例制度に基づき、幼稚園等で勤務する幼稚園教諭、及び幼稚園教諭免許を有する者で幼稚園等において実務経験を有する者を対象に、保育士資格取得のための特例講座を、奈良市、帝塚山大学及び奈良佐保短期大学と連携して開講している（別添資料 3-1-13-4①）。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画 3－（1）－13－4）

保育士資格を取得するための特例講座を、奈良市、帝塚山大学及び奈良佐保短期大学と連携して開講している。

○平成 31（令和元）年度の実施予定（中期計画 3－（1）－13－4）

(A) 引き続き保育士資格取得のための特例講座を、奈良市、帝塚山大学、奈良佐保短期大学と連携して開講する。

4 その他の目標（大項目）

(1) 中項目4－(1)「グローバル化」の達成状況の分析

[小項目4－(1)－14の分析]

小項目の内容	海外の協定大学等との間での留学生の派遣や受け入れ及び教育研究等を通じて、グローバルな視野を備えた教員を養成する。
--------	--

○小項目4－(1)－14総括

《関係する中期計画の実施状況》

実施状況の判定	自己判定の内訳 (件数)	該当する 中期計画番号
中期計画を実施し、優れた実績を上げている。	2	4-(1)-14-1 4-(1)-14-2
中期計画を実施している。	0	
中期計画を十分に実施しているとはいえない。	0	
計	2	

中期計画4－(1)－14－1では、「百済文化国際シンポジウム」の10年にわたる継続的な主催や、東アジアの高等教育機関との国際シンポジウムの継続的な参画など、学術研究交流を推進し、教員養成大学としての特色を活かした国際交流に関する基本戦略の構築など、社会のグローバル化に対応できる教員養成のための取組を着実に進めている。

中期計画4－(1)－14－2では、本学授業及び課外活動において、日本人学生と留学生の共修・協働の機会を積極的に設け、教員に必要な異文化間能力を育成するとともに、附属学校を含む地域の小中学校においても日本人学生、留学生との協働によって、学校教育における国際理解教育に貢献するなど、さまざまな分野で本学学生と留学生との交流を推進している。

以上のことから、中期計画を達成する予定である。

○特記事項（小項目4－(1)－14）

（優れた点）

- ・ 古都奈良に位置する本学と、かつて百済の都があった韓国・公州市に位置する公州大学が協力して、百済と日本の文化に関する国際シンポジウムを10年間にわたり継続して開催している。（中期計画4－(1)－14－1）

（特色ある点）

- ・ 該当なし。

（今後の課題）

- ・ 該当なし。

[小項目 4－(1)－14の下にある中期計画の分析]

《中期計画 4－(1)－14－1に係る状況》

中期計画の内容	社会のグローバル化に対応できる教員の養成に資するため、海外の協定大学等や、東アジアを始めとする高等教育機関と連携し、研究者・大学院生の交流や共同研究事業等を実施する。
実施状況（実施予定を含む）の判定	<input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況（中期計画 4－(1)－14－1）

(A) 海外の協定大学や研究機関とのこれまでの交流や、各種のアンケート調査（国際交流に関するシンポジウム等、海外の研究機関との共同研究状況、グローバルな視点を備えた教員育成のための授業・教育実践の実施状況）の結果を踏まえ、教員養成大学としての特色を活かした国際交流に関する基本戦略を構築し、大学ホームページで公表した（別添資料 4-1-14-1①）。

(B) 本学と韓国の協定大学である公州大学校が協力して、「百済文化国際シンポジウム」を毎年開催し、教員・大学院生が発表を行った（別添資料 4-1-14-1②）。また「日韓教育大学長総長フォーラム」や、「東アジア教員養成国際コンソーシアム」の加盟大学として東アジア教員養成国際シンポジウムにも毎年参画し、研究交流・情報交換を行うとともに、後者では大学院生が平成 30 年度に発表を行った（別添資料 4-1-14-1③a, b）。また、本学国際交流留学センター主催シンポジウム「教員養成大学におけるグローバル人材育成を考える」を継続的に開催した（別添資料 4-1-14-1④）。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画 4－(1)－14－1）

公州大学校との「百済文化国際シンポジウム」を継続的に主催し（10 年間）、教員・大学院生が発表を行い、学術研究交流を推進するとともに、東アジアの高等教育機関との国際シンポジウムにも継続的に参画した。さらに、こうした実績や各種のアンケート調査を踏まえて、教員養成大学としての特色を活かした国際交流に関する基本戦略を構築するなど、社会のグローバル化に対応できる教員の養成のための取組を着実に進めている。

○平成 31（令和元）年度の実施予定（中期計画 4－(1)－14－1）

(A) 国際交流に関する戦略に基づき、海外の大学等との国際交流協定について、交流状況を整理し、必要に応じ協定内容の見直しや更新を行う。



(B) 研究者、大学院生の交流と共同研究をさらに推進するため、韓国の協定大学等と国際シンポジウムを共催し、大学内外の若手研究者の発表機会の拡充を行う。

《中期計画4－(1)－14－2に係る状況》

中期計画の内容	グローバルな視野を備えた教員を養成するため、海外の協定大学へ学生を派遣するとともに、留学生を受け入れ、本学学生と留学生の交流を活発化させる等、留学支援への取組を充実させる。
実施状況（実施予定を含む）の判定	<input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況（中期計画4－(1)－14－2）

(A) 本学から海外の協定大学へ学生を派遣するとともに（別添資料4-1-14-2①）、派遣留学生等に対しては、世界的にテロのリスクが高まる中、海外留学安全対策協議会（JCSOS）から講師を招いて危機管理セミナーを実施した（別添資料4-1-14-2②）。一方、海外からの留学生を受け入れるとともに、平成29年度の協定大学からの受け入れ留学生については、海外留学支援制度協定による奨学金を支給した（別添資料4-1-14-2③）。

(B) 附属小学校での「言語・文化」「外国語」の授業、附属中学校での「異文化理解」の授業、及び「奈良市放課後子ども教室」、本学図書館での「絵本の読み聞かせ」など、学校現場や地域活動において、留学生と本学学生がともに参加し、国際交流活動を行った（別添資料4-1-14-2④）。

(C) 日本人学生が参加する「留学生サポーター制度」により留学生の生活支援を充実させる一方、日本人学生と留学生との交流を活性化させる各種取組を実施するとともに、留学生プログラムの各種発表会を開催し全学に公開した（別添資料4-1-14-2⑤a, b）。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画4－(1)－14－2）

海外の協定大学へ毎年学生を派遣するとともに、多くの留学生を受け入れた。そして授業や課外活動では、日本人学生と留学生の共修・協働の機会を積極的に設け、学校教員として必要な異文化間能力の育成を行った。また、日本人学生と留学生とが協働して、附属学校を含む地域の小中学校において国際理解教育に貢献するなど、さまざまな分野で本学学生と留学生との交流を活発に行った。

○平成31（令和元）年度の実施予定（中期計画4－(1)－14－2）

(A) 引き続き海外の協定大学への学生の派遣と留学生の受け入れとともに、留学生サ

ポーター制度、国際交流イベント、地域貢献における日本人学生と留学生の協働、留学生プログラム各種発表会の全学公開、派遣留学生の帰国報告会等を実施し、本学学生と留学生の交流を推進する。

(B) 附属学校園での授業等において、留学生と本学学生が参加し、引き続き国際交流活動を行う。

(C) 「留学生サポーター制度」を活用するなど留学生の生活支援を充実させるとともに、留学生との交流を活性化させる各種取組を引き続き行う。

(2) 中項目 4 - (2) 「附属学校」の達成状況の分析

[小項目 4 - (2) - 15 の分析]

小項目の内容	附属学校園は、大学の方針のもと、各学校園での教育実践を充実させ、教育実習校及び公立学校のモデル校としての機能を強化する。
--------	--

○小項目 4 - (2) - 15 総括

《関係する中期計画の実施状況》

実施状況の判定	自己判定の内訳 (件数)	該当する 中期計画番号
中期計画を実施し、優れた実績を上げている。	0	
中期計画を実施している。	3	4-(2)-15-1 4-(2)-15-2 4-(2)-15-3
中期計画を十分に実施しているとはいえない。	0	
計	3	

中期計画 4 - (2) - 15 - 1 では、教育実習委員会が附属学校園と連携して、「教育実習ポリシー及び教育実習の目標・方法・評価に係る指標」を作成し、教育実習の機能を強化した。

中期計画 4 - (2) - 15 - 2 では、附属学校部のもとに「教育研究連携専門部会」を設置し、附属中学校と奈良県や奈良女子大学附属中等教育学校との間で人事交流を活発化させている。また、大学教員が附属中学校で授業を実施できる体制を整え、「奈良教育大学教員のための研修プログラム」の一部として整備した。これにより、附属学校園では県教育委員会や大学などとの教育研究の連携が大きく進んだ。

中期計画 4 - (2) - 15 - 3 では、附属学校において、多様なニーズのある児童生徒に対して、次世代教員養成センターと連携して、学校の教育相談体制の充実や、学生の教育臨床力の向上について開発研究をした。また、ユネスコスクール加盟校として、ESD の理念に基づいた活動を継続的に展開した。一連の成果は、広く外部の教育関係者に公開した。

以上のことから、中期計画を達成する予定である。

なお、平成 30 年度から非常勤理事（渉外・附属学校園担当）1 名を置き、奈良県・奈良市教育委員会、及び奈良女子大学附属学校と本学附属学校園の連携を強化する体制とした。

○特記事項（小項目 4 - (2) - 15）

（優れた点）

- ・附属学校園すべてがユネスコスクール加盟校となり ESD の理念に基づいた活動を継続して展開し、一連の成果を公開研究会や紀要等で発信している。（中期計画 4 - (2)

－ 1 5 － 3)

(特色ある点)

- ・ 大学教員が附属中学校で授業を実施できるように体制を整え、大学教員の研修プログラムとしても整備した。(中期計画 4－(2)－1 5－2)

(今後の課題)

- ・ 大学の運営方針のもと、附属学校園相互の連携を着実に推進し、公立学校のモデル校としての機能を一層強化していく必要がある。(中期計画 4－(2)－1 5－3)

[小項目 4－(2)－1 5 の下にある中期計画の分析]

《中期計画 4－(2)－1 5－1 に係る状況》

中期計画の内容	大学と連携し、学部生・大学院生の教育実習及びスクールサポート等における実践の機会を充実するとともに、教育実習で培う目標に基づき、実習校としての役割を果たす。
実施状況（実施予定を含む）の判定	<input type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。

○実施状況（中期計画 4－(2)－1 5－1）

- (A) 教育実習委員会と附属学校園は、附属学校園での教育実習機能を強化するため、「教育実習ポリシー」及び「教育実習の目標・方法・評価の指標」を作成し（平成 29 年度）、これに基づき教育実習を実施している（別添資料 4-2-15-1①a, b）。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画 4－(2)－1 5－1）

大学の教育実習委員会と附属学校園が連携して「教育実習ポリシー及び教育実習の目標・方法・評価に係る指標」を作成し、学部生・大学院生に対する教育実習の機能強化を進めている。

○平成 31（令和元）年度の実施予定（中期計画 4－(2)－1 5－1）

- (A) 「教育実習ポリシー」及び「教育実習の目標・方法・評価の指標」を踏まえて作られた計画に基づいて実習を実施し、評価を行う。

《中期計画 4－(2)－1 5－2 に係る状況》

中期計画の内容	大学及び教育委員会や公立学校などとの教育研究連携をさらに進めるとともに、教育委員会等との人事交流を促進するため、附属学校部のもとに教育研究連携部会を設置するなど、組織的整備を行う。
---------	--

実施状況（実施予定を含む）の判定	<input type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。 <input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。
------------------	--

○実施状況（中期計画4－（2）－15－2）

(A) 奈良県教育委員会等との人事交流促進のため、附属学校部に「教育研究連携専門部会」を設置し（別添資料4-2-15-2①）、交流人事を促進するため「人事交流に関する協定書」を改定した（平成28年度）（別添資料4-2-15-2②）。これにより、平成30年度には附属中学校に県教委から派遣があった。また、附属中学校と奈良女子大学附属中等教育学校（別添資料4-2-15-2③）との間で協議を行い、平成30年度には附属学校教員の人事相互交流を行った（原則2年間勤務）。

(B) 大学の地域教育研究拠点と附属中学校との協議により、大学教員が附属中学校で授業を行えるよう、受け入れ体制を整えるとともに、「奈良教育大学教員のための研修プログラム」の一部として整備し、平成31年3月の教授会で周知した（別添資料4-2-15-2④a, b）。

小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画4－（2）－15－2）

附属学校部のもとに「教育研究連携専門部会」を設置し、本学・奈良県教育委員会・奈良女子大学との間で附属学校教員の人事交流を促進するとともに、大学教員が積極的に附属中学校で授業を行える体制を整え、「奈良教育大学教員のための研修プログラム」を整備することで、附属学校園における教育研究や連携を進めた。

○平成31（令和元）年度の実施予定（中期計画4－（2）－15－2）

(A) 奈良県教育委員会や奈良女子大学との附属学校における教員人事交流の実績を踏まえ、その成果や課題を検証した上で、平成31（令和元）年度から奈良市教育委員会との交流を開始する。

(B) 「奈良教育大学教員のための研修プログラム」における附属学校及び地域の学校等の活用状況（授業観察、共同研究など）を確認し、検証を行う。

《中期計画4－（2）－15－3に係る状況》

中期計画の内容	大学の附属学校園として幼小中連携を推進し、子どもの発達に応じた教育指導の内容や方法に関わる実践的研究を進めるとともに、ユネスコスクールとしての附属学校園の特色を活かして公立学校のモデル校としての機能を強化し、その成果を広く外部の教育関係者に公開する。
実施状況（実施	<input type="checkbox"/> 中期計画を実施し、優れた実績を上げている。

予定を含む) の 判定	<input checked="" type="checkbox"/> 中期計画を実施している。 <input type="checkbox"/> 中期計画を十分に実施しているとはいえない。
----------------	--

## ○実施状況（中期計画4－（2）－15－3）

(A) 次世代教員養成センターと連携して、附属学校で不登校傾向などの多様なニーズのある児童生徒に対して、学生による学習支援や発達支援を行うとともに、支援活動を通して学校の教育相談体制の充実や、学生の教育臨床力の向上についての研究を進めた。これらの実践的研究の成果を公開研究会や研究紀要を通して県内及び全国の学校園に発信した（別添資料4-2-15-3①a～i）。

(B) ESD の理念である人権・平和、環境問題・自然との共生、他者理解等を附属学校園の行事の中に位置づけ、継続的なユネスコスクール活動として展開してきた。これらの成果を附属学校園で公開した（別添資料4-2-15-3①a～i）。また、附属幼稚園が平成30年に加盟したことで、附属学校園の全てがユネスコスクール加盟校となった（別添資料4-2-15-3②）。

## 小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画4－（2）－15－3）

附属学校園では、大学の次世代教員養成センターの協力と連携のもとに、多様なニーズのある児童生徒に対して、教育相談体制の充実や、学生の教育臨床力の向上についての研究を実施するとともに、ユネスコスクール加盟校として、ESD の理念に基づいた活動を展開し、一連の成果を広く公開した。

## ○平成31（令和元）年度の実施予定（中期計画4－（2）－15－3）

(A) 引き続き教育関係者も含む発表会等で、多様なニーズのある児童生徒への支援に関する成果を発信する。

(B) 引き続き教育関係者も含む発表会等で、ESD に基づくユネスコスクールの活動の成果を発信する。

「達成状況報告書」根拠資料一覧

資料番号	中期計画番号	資料名	出典
1	1-1-1-1①	1-1 改正免許法に対応した質の高い学部教職課程「次世代教員養成カリキュラム・奈良モデル」の構築	『日本教育大学協会研究年報』第36集(平成30年3月)
2	1-1-1-1②	1-1 教育職員免許法等の改正・改訂に対応した履修規則の一部改正	奈良教育大学履修規則の一部を改正する規則(平成30年12月20日)
3	1-1-1-1③	1-1 奈良教育大学教育学部 カリキュラム・フレームワーク点検結果に関する報告書	『奈良教育大学教育学部 カリキュラム・フレームワーク点検結果に関する報告書』(平成30年10月)
4	1-1-1-1④	1-1 教育学部新ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの実施に伴う、教育学部カリキュラム・フレームワーク(Cuffet)の改訂について	平成30年12月19日教授会資料
5	1-1-1-2①	1-2 「課題探究型学習」指導力を系統的に育成するためのガイドライン	次世代教員養成センター作成
6	1-1-1-2②	1-2 シラバス「奈良と教育」	シラバス
7	1-1-1-2③	1-2 ICT活用力学生調査結果概要	平成30年3月5日教育課程開発室資料
8	1-1-1-2④	1-2 奈良教育大学教育学部時期教育課程編成プロジェクトチームの設置について	平成29年4月26日教授会資料
9	1-1-1-2⑤	1-2 教育学部次期教育課程編成プロジェクトチーム審議内容の中間報告	平成29年9月20日教育学部次期教育課程編成プロジェクトチーム会議中間報告会資料
10	1-1-1-3①	1-3 平成28年度学長裁量経費プロジェクト報告書「エビデンスにもとづく資質能力向上の試行～「学校支援実践」におけるSEQを用いた指導」	平成28年度学長裁量経費プロジェクト報告書「エビデンスにもとづく資質能力向上の試行～「学校支援実践」におけるSEQを用いた指導」
11	1-1-1-3②a	1-3 学校フィールド演習イメージ	平成30年12月17日教育課程開発室資料
12	1-1-1-3②b	1-3 学校体験活動事前調査アンケート(奈良市立学校)集計結果	平成31年2月27日教育課程開発室資料
13	1-1-1-3③a	1-3 平成29年度 奈良教育大学「スクールサポーター1級」研修会開催案内	平成29年度 奈良教育大学「スクールサポーター1級」研修会開催案内(スクールサポーター2級の認定を受けられた皆さまへ)
14	1-1-1-3③b	1-3 平成28年度 奈良教育大学「スクールサポーター1級」研修会開催案内	平成28年度 奈良教育大学「スクールサポーター1級」研修会開催案内
15	1-1-2-1①	2-1 成績評価基準のガイドラインによる成績評価の実施状況について(アンケート)(アンケート結果)	平成29年4月16日教務委員会資料、平成29年10月25日教授会資料、平成31年3月20日教授会資料
16	1-1-2-1②	2-1 奈良教育大学教育学部 カリキュラム・フレームワーク点検結果に関する報告書 1-1-1-1③と同じ	『奈良教育大学教育学部 カリキュラム・フレームワーク点検結果に関する報告書』(平成30年10月)
17	1-1-2-1③	2-1 「成績評価に関する申し合わせ」の一部改正案	平成31年2月20日教授会資料
18	1-1-2-1④a	2-1 奈良教育大学教育実習委員会教育実習ポリシー策定ワーキンググループ要項	奈良教育大学教育実習委員会教育実習ポリシー策定ワーキンググループ要項
19	1-1-2-1④b	2-1 教育実習ポリシー等策定の流れ(イメージ図)	平成29年7月26日教授会資料
20	1-1-2-1④c	2-1 奈良教育大学教育実習ポリシー	平成30年3月20日教授会資料
21	1-1-2-1⑤	2-1 「教職実践演習」の実施内容・方法についてのアンケートの結果と考察	平成31年2月27日教育課程開発室資料
22	1-1-3-1①	3-1 平成28年度大学院生対象アンケート(「学びの4コース」制に関するアンケート)	教職大学院作成
23	1-1-3-1②	3-1 2018年度カリキュラム検討(案)	教職大学院作成
24	1-1-3-1③	3-1 教職大学院における課題等	平成31年3月11日教育課程開発室資料
25	1-1-3-1④	3-1 教職大学院会議会議次第と議事録	平成31年3月6日教職大学院会議議事録
26	1-1-3-2①	3-2 平成28年度「課題探究実習Ⅰ」「課題解決実習Ⅰ」「へき地学校実習」シラバス	シラバス
27	1-1-3-2②a	3-2 平成28年度学校実践実習委員会議事録	平成28年11月11日学校実践実習委員会議事録
28	1-1-3-2②b	3-2 平成29年度学校実践実習委員会議事録、平成28年度3月末実施奈良教育大学大学院 3・4年コースアンケート(抜粋)	平成29年11月17日学校実践実習委員会議事録
29	1-1-3-2②c	3-2 平成30年度学校実践実習委員会議事録	平成30年11月5日学校実践実習委員会議事録
30	1-1-3-2③	3-2 十津川村教育委員会・奈良教育大学教職大学院 合同企画 十津川サマースクール記録集	十津川村教育委員会・奈良教育大学教職大学院 合同企画 十津川サマースクール記録集
31	1-1-3-2④a	3-2 平成28年度教職大学院教育連携協議会議事録	平成29年2月9日奈良教育大学教職大学院教育連携協議会議事録
32	1-1-3-2④b	3-2 平成29年度学校実践実習委員会議事録、平成28年度3月末実施奈良教育大学大学院 3・4年コースアンケート(抜粋) 1-1-3-2②と同じ	平成29年11月17日度学校実習委員会議事録
33	1-1-3-2④c	3-2 平成29年度教職大学院教育連携協議会議事録	平成30年2月13日奈良教育大学教職大学院教育連携協議会議事録
34	1-1-3-2④d	3-2 平成29年度教職大学院行事予定表	平成29年度 奈良教育大学(教職大学院)教育行事予定表

資料番号	中期計画番号	資料名	出典
35	1-1-4-1①a	4-1 授業担当者を対象とした「実践的科目」、「教育課題探究科目」に関する報告会、アンケート	授業担当者を対象とした「実践的科目」、「教育課題探究科目」に関する報告会、アンケート
36	1-1-4-1①b	4-1 大学院生を対象とした授業評価アンケート集計結果	授業評価アンケート集計結果(大学院生)
37	1-1-4-1①c	4-1 H29年度「実践的科目」ならびに「教育課題探究科目」に関する調査結果報告	平成30年9月20日教育課程開発室資料
38	1-1-4-1①d	4-1 教職大学院の課題	平成31年3月11日教育課程開発室メモ
39	1-1-4-2①a	4-2 授業担当者を対象とした「実践的科目」、「教育課題探究科目」に関する報告会、アンケート 1-1-4-1①と同じ	授業担当者を対象とした「実践的科目」、「教育課題探究科目」に関する報告会、アンケート
40	1-1-4-2①b	4-2 大学院生を対象とした授業評価アンケート集計結果 1-1-4-1①と同じ	授業評価アンケート集計結果(大学院生)
41	1-1-4-2②a	4-2 H29年度「実践的科目」ならびに「教育課題探究科目」に関する調査結果報告 1-1-4-1①と同じ	平成30年9月20日教育課程開発室資料
42	1-1-4-2②b	4-2 教職大学院の課題 1-1-4-1①と同じ	平成31年3月11日教育課程開発室メモ
43	1-1-5-1①	5-1 成績評価基準のガイドラインによる成績評価の実施状況について(アンケート)(アンケート結果) 1-1-2-1①と同じ	平成29年4月16日教務委員会資料、平成29年10月25日教授会資料、平成31年3月20日教授会資料
44	1-1-5-1②	5-1 奈良教育大学教育学部 カリキュラム・フレームワーク点検結果に関する報告書 1-1-1-1③と同じ	『奈良教育大学教育学部 カリキュラム・フレームワーク点検結果に関する報告書』(平成30年10月)
45	1-1-5-1③	5-1 「成績評価に関する申し合わせ」の一部改正案 1-1-2-1③と同じ	平成31年2月20日教授会資料
46	1-1-5-1④	5-1 修士論文の評価基準検討経緯	平成30年11月26日、平成30年12月17日教育課程開発室メモ
47	1-2-6-1①a	6-1 大学院改組準備委員会報告書 [内容は非公開]	「国立大学法人奈良教育大学改組準備委員会報告書について」(平成29年3月31日)
48	1-2-6-1①b	6-1 平成29年度大学院改組委員会議題一覧 [審議内容・資料は非公開]	企画連携課作成
49	1-2-6-2①a	6-2 全学ポートフォリオシステムつかいかた	全学ポートフォリオシステムつかいかた <a href="http://www.nara-edu.ac.jp/students/portfolio_top.html">http://www.nara-edu.ac.jp/students/portfolio_top.html</a>
50	1-2-6-2①b	6-2 教員版「課題設定・課題確認 資料提示・ポートフォリオを閲覧する方法」	全学ポートフォリオシステムつかいかた <a href="http://www.nara-edu.ac.jp/students/portfolio_top.html">http://www.nara-edu.ac.jp/students/portfolio_top.html</a>
51	1-2-6-2①c	6-2 平成29年度 教員向け研修会配付資料「自己成長記録の活用」	次世代教員養成センター作成
52	1-2-6-2②a	6-2 教職入門システム利用状況調査(2016と2015の比較)	次世代教員養成センター作成
53	1-2-6-2②b	6-2 教職入門等システム利用状況調査(2018年度)	次世代教員養成センター作成
54	1-2-6-2②c	6-2 教職現代教師論学生アンケートから見る「全学ポートフォリオ運用」についてのデータ分析2018年度	次世代教員養成センター作成
55	1-2-6-3①a	6-3 奈良教育大学教員のための研修プログラム	地域教育研究拠点作成(平成30年3月20日教授会決定)
56	1-2-6-3①b	6-3 奈良教育大学教員のための研修プログラム web報告画面	奈良教育大学教員のための研修プログラム web報告画面
57	1-2-6-3②a	6-3 教育学部教員としての職能成長を支える大学新任教員向けFDプログラム	教育課程開発室FD専門部会作成
58	1-2-6-3②b	6-3 新任大学教員FD研修会当日配付資料	教育課程開発室FD専門部会作成
59	1-2-6-4①a	6-4 スクールサポーター研修認証制度案内	スクールサポーター研修認証制度案内
60	1-2-6-4①b	6-4 ビデオコンテンツ(スクールサポート研修ビデオ教材)	京阪奈三教育大学連携推進事業 <a href="https://jisedai.nara-edu.ac.jp/open/nc_renkei/htdocs/?page_id=100">https://jisedai.nara-edu.ac.jp/open/nc_renkei/htdocs/?page_id=100</a>
61	1-2-6-4②	6-4 奈良教育大学子どもパートナー養成講座案内	次世代教員養成センター作成
62	1-2-6-4③a	6-4 平成29年度国立大学改革強化推進補助金実績報告書	平成29年度国立大学改革強化推進補助金実績報告書
63	1-2-6-4③b	6-4 ICT研修テキストのダウンロード、教員研修モデル	次世代教員養成センター <a href="https://jisedai.nara-edu.ac.jp/open/netcommons/htdocs/?page_id=367">https://jisedai.nara-edu.ac.jp/open/netcommons/htdocs/?page_id=367</a>
64	1-2-6-4③c	6-4 研修テキストパンフレット	次世代教員養成センター <a href="https://jisedai.nara-edu.ac.jp/open/netcommons/htdocs/?action=common_download_main&amp;upload_id=6722">https://jisedai.nara-edu.ac.jp/open/netcommons/htdocs/?action=common_download_main&amp;upload_id=6722</a>
65	1-2-6-5①a	6-5 奈良教育大学と奈良県教育委員会との連携協力に関する協議会専門部会設置に関する申し合わせ	奈良教育大学と奈良県教育委員会との連携協力に関する協議会専門部会設置に関する申し合わせ
66	1-2-6-5①b	6-5 奈良教育大学、奈良県へき地教育振興協議会及び奈良県教育委員会の連携協力に関する協定書	奈良教育大学、奈良県へき地教育振興協議会及び奈良県教育委員会の連携協力に関する協定書
67	1-2-6-5②a	6-5 平成28年度 ICTを活用した教育推進自治体応援事業(ICTを活用した学びの推進プロジェクト パワーアップコース)報告書	文部科学省 <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1397816.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1397816.htm</a>
68	1-2-6-5②b	6-5 教員免許更新講習シラバス(教員のICT活用指導力の向上)	平成30年度教員免許更新講習シラバス
69	1-2-6-5③a	6-5 文科省委託事業「次世代の教育情報化推進事業」事業報告書	奈良県教育委員会作成「次世代の教育情報化推進事業事業報告書」
70	1-2-6-5③b	6-5 「ならやまオープンセミナー 奈良教育大学教員による現職教員のための公開講座」案内	「ならやまオープンセミナー 奈良教育大学教員による現職教員のための公開講座」案内



資料番号	中期計画番号	資料名	出典
71	1-3-7-1①a	7-1 ラーニングコモンズ利用統計(平成28~30年度)	教育研究支援課作成
72	1-3-7-1①b	7-1 ラーニング・コモンズ等の利用状況と今後の活用方法について	平成28~29年度図書館運営委員会資料
73	1-3-7-1①c	7-1 ラーニング・コモンズの授業活用推進について	平成29年9月13日図書館運営委員会資料
74	1-3-7-1①d	7-1 ラーニング・コモンズの利用状況と今後の活用について	平成30年11月14日図書館運営委員会資料
75	1-3-7-1①e	7-1 えほんのひろば利用実績	教育研究支援課作成
76	1-3-7-1①f	7-1 教育資料館常設展「新薬師寺旧境内展」案内	教育資料館常設展「新薬師寺旧境内展」案内
77	1-3-7-1②a	7-1 グループ学習室の机・椅子の更新について	平成29年3月8日図書館運営委員会資料
78	1-3-7-1②b	7-1 奈良教育大学図書館利用規則の一部改正について	奈良教育大学図書館利用規則の一部を改正する規則
79	1-3-7-1②c	7-1 奈良教育大学における初等中等教育機関の教員向けICT研修の実施報告	教育研究支援課作成
80	1-3-7-1③	7-1 ラーニング・コモンズの利用状況と今後の活用について 1-3-7-1①と同じ	平成30年11月14日図書館運営委員会資料
81	1-3-7-2①	7-2 ICT研修テキストのダウンロード、教員研修モデル 1-2-6-4③と同じ	次世代教員養成センター <a href="https://jisedai.nara-edu.ac.jp/open/netcommons/htdocs/?page_id=367">https://jisedai.nara-edu.ac.jp/open/netcommons/htdocs/?page_id=367</a>
82	1-3-7-2②	7-2 次世代教員養成センター 情報教育部門の取組	奈良教育大学教育研究支援機構 News Letter 2019.3 第8号
83	1-3-7-2③a	7-2 学生のICT活用指導カチェックリストとその結果	次世代教員養成センター作成
84	1-3-7-2③b	7-2 自学自習用ユニット教材WBLSSのユニット一覧画面	WBLSS( <a href="https://wblss.nara-edu.ac.jp/wbt/Default.asp">https://wblss.nara-edu.ac.jp/wbt/Default.asp</a> )
85	1-3-7-3①	7-3 TV会議システム(双方向遠隔授業システム)を用いたイベント一覧	『「学び続ける教員」のための教員養成・研修高度化事業 最終報告書』(平成30年6月)
86	1-3-7-3②	7-3 学生企画活動支援事業募集要項	平成30年度定例第8回学生委員会資料
87	1-3-7-4①a	7-4 授業料免除可能額(平成28~平成31年度)	学生支援課作成
88	1-3-7-4①b	7-4 授業料免除申請者数(平成28~平成30年度)	学生支援課作成
89	1-3-7-4②a	7-4 奈良教育大学海外派遣留学生支援奨学金支給規則	奈良教育大学海外派遣留学生支援奨学金支給規則
90	1-3-7-4②b	7-4 派遣留学生支援奨学金支給実績(2015~2019年度)	学生支援課作成
91	1-3-7-4③	7-4 海外派遣留学生支援奨学金 調査結果一覧	平成31年3月14日国際交流推進室会議資料
92	1-3-8-1①a	8-1 平成30年度卒業・修了者対象 就職支援取組一覧(平成29年度~平成30年度)	就職支援室作成
93	1-3-8-1①b	8-1 各種支援プログラムの分析・評価状況(就職支援室会議における検討状況)	就職支援室作成
94	1-3-8-1②a	8-1 (在学生向け)就職に関する取組み	奈良教育大学 <a href="http://www.nara-edu.ac.jp/students/employment/">http://www.nara-edu.ac.jp/students/employment/</a>
95	1-3-8-1②b	8-1 就職行事予定表	奈良教育大学 <a href="http://www.nara-edu.ac.jp/students/employment/">http://www.nara-edu.ac.jp/students/employment/</a>
96	1-3-8-1②c	8-1 就職支援ガイドランスの概要	奈良教育大学 <a href="http://www.nara-edu.ac.jp/students/employment/">http://www.nara-edu.ac.jp/students/employment/</a>
97	1-3-8-1②d	8-1 就職ガイダンス・セミナー	奈良教育大学 <a href="http://www.nara-edu.ac.jp/students/employment/">http://www.nara-edu.ac.jp/students/employment/</a>
98	1-3-8-1②e	8-1 キャリア・アドバイザーによる就職相談	奈良教育大学 <a href="http://www.nara-edu.ac.jp/students/employment/">http://www.nara-edu.ac.jp/students/employment/</a>
99	1-3-8-1②f	8-1 保護者向け就職ガイダンス概要	平成30年11月23日保護者向け就職ガイダンス資料
100	1-3-8-1②g	8-1 キャリア教育科目シラバス	シラバス
101	1-3-8-2①a	8-2 「なつきょんネット」登録のお願い	就職支援室作成
102	1-3-8-2①b	8-2 卒業後教授支援「なつきょんネット」	奈良教育大学 <a href="https://career.nara-edu.ac.jp/">https://career.nara-edu.ac.jp/</a>
103	1-4-9-1①	9-1 平成32(2020)年度 教育学部アドミッション・オフィス入試の実施について(予告)	奈良教育大学HP( <a href="http://www.nara-edu.ac.jp/admissions/list.html">http://www.nara-edu.ac.jp/admissions/list.html</a> )
104	1-4-9-1②	9-1 2021年度奈良教育大学教育学部入学選抜(一般選抜)(特別選抜)について(予告)	奈良教育大学 <a href="http://www.nara-edu.ac.jp/admissions/list.html">http://www.nara-edu.ac.jp/admissions/list.html</a>
105	1-4-9-1③	9-1 2020年度教育学部編入学学生の募集について(予告)	奈良教育大学 <a href="http://www.nara-edu.ac.jp/admissions/list.html">http://www.nara-edu.ac.jp/admissions/list.html</a>
106	1-4-9-2①a	9-2 教育学部アドミッション・オフィス入試検討ワーキンググループ設置要項	教育学部アドミッション・オフィス入試検討ワーキンググループ設置要項
107	1-4-9-2①b	9-2 平成32(2020)年度 教育学部募集人員内訳の変更について(予告)	奈良教育大学HP( <a href="http://www.nara-edu.ac.jp/admissions/list.html">http://www.nara-edu.ac.jp/admissions/list.html</a> )

	資料番号	中期計画番号	資料名	出典
108	1-4-9-2①c	9-2	平成32(2020)年度 教育学部アドミッション・オフィス入試の実施について(予告) 1-4-9-1①と同じ	奈良教育大学HP( <a href="http://www.nara-edu.ac.jp/admissions/list.html">http://www.nara-edu.ac.jp/admissions/list.html</a> )
109	1-4-9-2②a	9-2	次世代教員養成塾の開講について	平成30年6月15日奈良県報道資料 <a href="http://www.pref.nara.jp/50180.htm">http://www.pref.nara.jp/50180.htm</a>
110	1-4-9-2②b	9-2	奈良県次世代教員養成塾(前期プログラム)	奈良県 <a href="http://www3.pref.nara.jp/hodo/item/58483.htm">http://www3.pref.nara.jp/hodo/item/58483.htm</a>
111	1-4-9-2③	9-2	高校生版教員養成プログラム「奈良県次世代教員養成塾」の策定と実施	文部科学省『国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する取組状況について～グッドプラクティスの共有と発信に向けた事例集～』 <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/077/gaiyou/1416730.htm">http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/077/gaiyou/1416730.htm</a>
112	1-4-10-1①	10-1	教職大学院における課題等	平成31年3月11日教育課程開発室資料
113	2-1-11-1①a	11-1	平成30年度学長裁量経費成果報告書(融合型教科専門教育による教員養成高度化の新展開)	平成30年度学長裁量経費成果報告書(融合型教科専門教育による教員養成高度化の新展開)
114	2-1-11-1①b	11-1	平成30年度学長裁量経費成果報告書(児童・生徒の多様性理解のための教員養成・研修カリキュラムの開発に関する調査研究)	平成30年度学長裁量経費成果報告書(児童・生徒の多様性理解のための教員養成・研修カリキュラムの開発に関する調査研究)
115	2-1-11-1②	11-1	「教員養成及び教員研修での実践に結びつく研究プロジェクトの研究発表会」案内	「教員養成及び教員研修での実践に結びつく研究プロジェクトの研究発表会」案内
116	2-1-11-1③	11-2	教師のための多様性理解ハンドブック	『教師のための多様性理解ハンドブック』(2019年3月)
117	2-1-11-1④	11-2	シラバス「教師のための多様性理解」	平成30年度シラバス
118	2-1-11-2①a	11-2	(学生向け)ESDプログラム(ESDティーチャー)履修の手引き	ESDプログラム(ESDティーチャー)履修の手引き
119	2-1-11-2①b	11-2	(現職教員向け)ESDティーチャー認証プログラム	近畿ESDコンソーシアム <a href="http://kinkiesd.xsrv.jp/activities/esdteacher/teachers">http://kinkiesd.xsrv.jp/activities/esdteacher/teachers</a>
120	2-1-11-2①c	11-2	ESDティーチャー等認定数一覧	教育研究支援課作成
121	2-1-11-2②	11-2	ESD連続セミナー 開催一覧(平成28年度～平成30年度)	教育研究支援課作成
122	2-1-11-2③	11-2	近畿ESDコンソーシアムの目的	近畿ESDコンソーシアム <a href="http://kinkiesd.xsrv.jp/about">http://kinkiesd.xsrv.jp/about</a>
123	2-1-11-2④a	11-2	新理数プログラム(SSTコース)履修の手引き	新理数プログラム(SSTコース)履修の手引き
124	2-1-11-2④b	11-2	平成28～30年度 新理数プログラム受講生数	理数教育研究センター作成
125	2-1-11-2④c	11-2	平成28～30年度 SST認定者数	理数教育研究センター作成
126	2-1-11-2⑤a	11-2	平成28～30年度 曾爾サテライト事業実施概要	理数教育研究センター作成
127	2-1-11-2⑤b	11-2	平成30年度 大和郡山サテライト 派遣実施の記録	理数教育研究センター作成
128	2-1-11-2⑤c	11-2	平成28、29年度 関西文化学術研究都市内の協力校との連携事業の実施	理数教育研究センター作成
129	2-1-11-2⑥	11-2	平成28～30年度 高大連携	理数教育研究センター作成
130	2-1-11-2⑦a	11-2	奈良教育大学と高エネルギー加速器研究機構との連携協力に関する協定書	奈良教育大学と高エネルギー加速器研究機構との連携協力に関する協定書
131	2-1-11-2⑦b	11-2	平成28～30年度 高校生のための素粒子サイエンスキャンプBelle Plus(ベル・プリュス)	理数教育研究センター作成
132	2-1-11-2⑧	11-2	平成28～30年度「サイエンスチームなら」	理数教育研究センター作成
133	2-1-11-2⑨	11-2	特別支援教育研究センター 平成28～29年度の取組み	奈良教育大学特別支援教育研究センターNEWS LETTER(vol.10 2017年5月発行)(vol.11 2018年5月発行)(vol.12 2019年5月発行)
134	2-1-11-2⑩	11-2	特別支援教育研究センター相談申込件数	企画連携課作成
135	2-1-11-2⑪	11-2	活動例(鉄オタ倶楽部)	特別支援教育研究センター <a href="http://cp-support2.nara-edu.ac.jp/hp/">http://cp-support2.nara-edu.ac.jp/hp/</a>
136	2-1-11-2⑫a	11-2	平成28～30年度 奈良実習園での栽培に関する授業への協力一覧	自然環境教育センター作成
137	2-1-11-2⑫b	11-2	平成28～30年度 附属学校園のESDに関わる授業への教材提供一覧	自然環境教育センター作成
138	2-1-11-2⑫c	11-2	平成28～30年度 自然環境教育センターにおける公開講座一覧	自然環境教育センター作成
139	2-1-11-2⑬	11-2	平成28～30年度 奈良県の自然環境保全に関わる活動(自然環境教育センター)	自然環境教育センター作成
140	2-1-11-2⑭	11-2	平成28～30年度 防災教育プログラム関連事業一覧	自然環境教育センター作成
141	2-1-11-2⑮	11-2	平成28～30年度 自然環境教育センターにおける奈良をテーマとした留学生活動一覧	自然環境教育センター作成
142	2-1-11-2⑯a	11-2	大学での国際交流活動(平成28～30年度)	国際交流留学センター <a href="http://cies.nara-edu.ac.jp/">http://cies.nara-edu.ac.jp/</a>

	資料番号	中期計画番号	資料名	出典
143	2-1-11-2①b	11-2	奈良教育大学国際交流留学センター主催シンポジウム「教員養成大学におけるグローバル人材育成を考える」ポスター 平成28～30年度	奈良教育大学国際交流留学センター主催シンポジウム「教員養成大学におけるグローバル人材育成を考える」ポスター 平成28～30年度
144	2-2-12-1①	12-1	平成30年度予算編成方針(抜粋)	平成30年度予算編成方針について
145	2-2-12-1②	12-1	「基盤的研究費の重点的配分」検討結果について	平成31年3月7日財務委員会資料
146	3-1-13-1①	13-1	国立大学法人奈良教育大学地域・教育連携室要項	国立大学法人奈良教育大学地域・教育連携室要項
147	3-1-13-1②	13-1	奈良教育大学と奈良県教育委員会との連携協力に関する協議会専門部会設置に関する申し合わせ 1-2-6-5①と同じ	奈良教育大学と奈良県教育委員会との連携協力に関する協議会専門部会設置に関する申し合わせ
148	3-1-13-1③a	13-1	奈良県次世代教員養成塾(前期プログラム) 1-4-9-2②と同じ	奈良県 <a href="http://www.pref.nara.jp/50180.htm">http://www.pref.nara.jp/50180.htm</a>
149	3-1-13-1③b	13-1	平成29年度奈良県との連携(奈良県ICT教育改善連携専門部会)関連の活動報告	平成29年度奈良県との連携(奈良県ICT教育改善連携専門部会)関連の活動報告
150	3-1-13-1③c	13-1	平成30年度 英語指導パワーアップ講座 開催要項	平成30年度 英語指導パワーアップ講座 開催要項
151	3-1-13-1③d	13-1	平成30年度奈良県複式学級・小規模学級担任等研修会 開催要項	平成30年度奈良県複式学級・小規模学級担任等研修会 開催要項
152	3-1-13-1③e	13-1	平成30年度小学校若手教員育成研修概要	奈良県立教育研究所作成
153	3-1-13-1④	13-1	双方向遠隔授業システムの活用による、教員研修とつないだ教員養成の取組	『文部科学省作成『国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する取組状況について～グッドプラクティスの共有と発信に向けた事例集～』 <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/077/gaiyou/1407166.htm">http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/077/gaiyou/1407166.htm</a>
154	3-1-13-1⑤	13-1	平成29年度 校内研修・講習会等(現職教員・保護者等対象)	奈良教育大学 <a href="http://www.nara-edu.ac.jp/general/chiiki.html">http://www.nara-edu.ac.jp/general/chiiki.html</a>
155	3-1-13-2①	13-2	平成30年度 教員免許状更新講習受講状況一覧	企画連携課作成
156	3-1-13-2②	13-2	双方向遠隔授業システムを用いた教員免許状更新講習一覧	企画連携課作成
157	3-1-13-2③	13-2	平成30年度教員免許状更新講習一覧(選択領域)	文部科学省 <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/004/1412470.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/004/1412470.htm</a>
158	3-1-13-2④a	13-2	「平成30年度 教師のための事例勉強会(教育臨床)」案内	「平成30年度 教師のための辞令勉強会(教育臨床)」案内
159	3-1-13-2④b	13-2	「平成30年度 奈良教育大学 教職員のための公開講座」案内	「平成30年度 奈良教育大学 教職員のための公開講座」案内
160	3-1-13-2④c	13-2	奈良県教育委員会教育職員免許法認定講習への講師派遣一覧(平成28～30年度)	企画連携課作成
161	3-1-13-2⑤a	13-2	平成30年度奈良教育大学教育職員免許法認定講習(中二種(英語))実施要項	平成30年度奈良教育大学教育職員免許法認定講習(中二種(英語))実施要項
162	3-1-13-2⑤b	13-2	平成30年度奈良教育大学教育職員免許法認定講習実施要項	平成30年度奈良教育大学教育職員免許法認定講習実施要項
163	3-1-13-2⑥a	13-2	平成30年度公開講座募集要項(実習園実施分2件)	奈良教育大学 <a href="http://www.nara-edu.ac.jp/graduate/courseindex/">http://www.nara-edu.ac.jp/graduate/courseindex/</a>
164	3-1-13-2⑥b	13-2	奈良市ESD連続セミナー	近畿ESDコンソーシアム <a href="http://kinkiesd.xsrv.jp/activities">http://kinkiesd.xsrv.jp/activities</a>
165	3-1-13-2⑥c	13-2	平成30年度 奈良教育大学 ESD-SDGs コンソーシアム 全国版ESDティーチャープログラム概要	近畿ESDコンソーシアム <a href="http://kinkiesd.xsrv.jp/national-version-esd-teacherprogram">http://kinkiesd.xsrv.jp/national-version-esd-teacherprogram</a>
166	3-1-13-2⑥d	13-2	平成30年度 カラダとこころのリフレッシュ講座 案内	「からだを通したストレスケア」「教育相談に生かすドラマセラピー」案内
167	3-1-13-2⑦a	13-2	平成30年度高大連携について	企画連携課作成
168	3-1-13-2⑦b	13-2	HP記事 「地域社会の学校教育現場の支援、特に高大接続の充実」	奈良教育大学 新理数 <a href="http://nesm.nara-edu.ac.jp/modules/bulletin/index.php?page=article&amp;storyid=384">http://nesm.nara-edu.ac.jp/modules/bulletin/index.php?page=article&amp;storyid=384</a> 、一般社団法人日本物理学会 <a href="https://www.gakkai-web.net/butsuri-jrsession/data/2019/shinsa.html">https://www.gakkai-web.net/butsuri-jrsession/data/2019/shinsa.html</a>
169	3-1-13-2⑦c	13-2	高校生版教員養成プログラム「奈良県次世代教員養成塾」の策定と実施 1-4-9-2③と同じ	文部科学省『国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する取組状況について～グッドプラクティスの共有と発信に向けた事例集～』 <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/077/gaiyou/1416730.htm">http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/077/gaiyou/1416730.htm</a>
170	3-1-13-3①a	13-3	スクールサポーター研修認証制度案内 1-2-6-4①と同じ	スクールサポーター研修認証制度案内
171	3-1-13-3①b	13-3	奈良教育大学子どもパートナー養成講座案内 1-2-6-4②と同じ	次世代教員養成センター作成
172	3-1-13-3①c	13-3	平成30年度 スクールサポーター研修・子どもパートナー等実施状況、スクールサポート等参加状況	学生支援課作成
173	3-1-13-3②a	13-3	平成30年度 大和郡山サテライト 派遣実施の記録 2-1-11-2⑤bと同じ	理数教育研究センター作成
174	3-1-13-3②b	13-3	平成28～30年度 曾爾サテライト事業実施概要 2-1-11-2⑤と同じ	理数教育研究センター作成

	資料番号	中期計画番号	資料名	出典
175	3-1-13-3③	13-3	平成28～30年度 サイエンス・スクール in 五條 実施概要	理教教育研究センター作成
176	3-1-13-3④	13-3	「不登校・ひきこもりを経験した若者とつながりについてまったり語り合う会」案内	「不登校・ひきこもりを経験した若者とつながりについてまったり語り合う会」案内
177	3-1-13-3⑤a	13-3	寺子屋について	奈良教育大学教育研究支援機構New Letter(2019.3第8号)
178	3-1-13-3⑤b	13-3	「夏休み!!宿題お助けプロジェクト」案内	特別支援教育研究センター <a href="http://cp-support2.nara-edu.ac.jp/hp/category/kensyuu/">http://cp-support2.nara-edu.ac.jp/hp/category/kensyuu/</a>
179	3-1-13-4①	13-4	2019年度 奈良教育大学保育士資格特例講座募集要項	2019年度 奈良教育大学保育士資格特例講座募集要項
180	4-1-14-1①	14-1	奈良教育大学 国際交流に関する戦略	奈良教育大学 国際交流に関する戦略(平成29年12月) <a href="https://www.nara-edu.ac.jp/international/post_57.html">https://www.nara-edu.ac.jp/international/post_57.html</a>
181	4-1-14-1②	14-1	第9～11回 百済国際シンポジウムプロジェクト報告書	企画連携課作成(第9、10回)、学生支援課作成(第11回)
182	4-1-14-1③a	14-1	第9～11回日韓教育大学長総長フォーラムプログラム	第9～11回日韓教育大学長総長フォーラムプログラム
183	4-1-14-1③b	14-1	第11～13回東アジア教員養成国際シンポジウムプログラム	第11～13回東アジア教員養成国際シンポジウムプログラム
184	4-1-14-1④	14-1	奈良教育大学国際交流留学センター主催シンポジウム「教員養成大学におけるグローバル人材育成を考える」ポスター 平成28～30年度 2-1-11-2⑩と同じ	奈良教育大学国際交流留学センター主催シンポジウム「教員養成大学におけるグローバル人材育成を考える」ポスター 平成28～30年度
185	4-1-14-2①	14-2	国際交流データ	国際交流留学センター <a href="http://cies.nara-edu.ac.jp/">http://cies.nara-edu.ac.jp/</a>
186	4-1-14-2②	14-2	海外留学・研修のための危機管理セミナー企画書 平成28年度～平成30年度	海外留学・研修のための危機管理セミナー企画書 平成28年度～平成30年度
187	4-1-14-2③	14-2	平成29年度海外留学支援制度(協定受入)学生交流創成タイプ(タイプA)採択プログラム一覧(短期研修・研究型)	日本学生支援機構 <a href="https://www.jasso.go.jp/ryugaku/tantoshu/study_j/short_term/2017.html">https://www.jasso.go.jp/ryugaku/tantoshu/study_j/short_term/2017.html</a>
188	4-1-14-2④	14-2	留学生の地域貢献/附属校との連携(平成28～30年度)	国際交流留学センター作成
189	4-1-14-2⑤a	14-2	留学生サポーター制度マッチング用アンケート	国際交流留学センター作成
190	4-1-14-2⑤b	14-2	大学での国際交流活動(平成30年度)	国際交流留学センター <a href="http://cies.nara-edu.ac.jp/">http://cies.nara-edu.ac.jp/</a>
191	4-2-15-1①a	15-1	奈良教育大学 教育実習ポリシー 1-1-2-1②cと同じ	平成30年3月20日教授会資料
192	4-2-15-1①b	15-1	教育実習の目標・方法・評価の指標	教育実習委員会作成
193	4-2-15-2①	15-2	奈良教育大学附属学校部運営委員会「教育研究連携専門部会」設置要項	奈良教育大学附属学校部運営委員会「教育研究連携専門部会」設置要項
194	4-2-15-2②	15-2	奈良県教育委員会と国立大学法人奈良教育大学との人事交流に関する協定書	奈良県教育委員会と国立大学法人奈良教育大学との人事交流に関する協定書
195	4-2-15-2③	15-2	国立大学法人奈良教育大学と国立大学法人奈良女子大学との人事交流に関する協定書	国立大学法人奈良教育大学と国立大学法人奈良女子大学との人事交流に関する協定書
196	4-2-15-2④a	15-2	H31年度 附属中学校における本学大学教員による授業の実施について	平成31年3月20日教授会資料
197	4-2-15-2④b	15-2	奈良教育大学教員のための研修プログラム 1-2-6-3①aと同じ	地域教育研究拠点作成(平成30年3月20日教授会決定)
198	4-2-15-3①a	15-3	平成28年度発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期・継続支援事業実施報告書	奈良教育大学 <a href="http://www.nara-edu.ac.jp/guide/garden.html">http://www.nara-edu.ac.jp/guide/garden.html</a>
199	4-2-15-3①b	15-3	奈良教育大学附属中学校公開研究会案内	奈良教育大学附属中学校公開研究会案内
200	4-2-15-3①c	15-3	奈良教育大学附属小学校公開研究会案内	奈良教育大学附属小学校公開研究会案内
201	4-2-15-3①d	15-3	奈良教育大学附属幼稚園公開保育研究会案内	奈良教育大学附属幼稚園公開保育研究会案内
202	4-2-15-3①e	15-3	奈良教育大学附属中学校研究紀要	奈良教育大学附属中学校研究紀要(平成29年3月15日)(平成30年3月30日)
203	4-2-15-3①f	15-3	奈良教育大学附属小学校研究紀要	奈良教育大学附属中学校研究紀要(平成29年3月)(平成30年3月)
204	4-2-15-3①g	15-3	奈良教育大学附属幼稚園研究紀要	奈良教育大学附属幼稚園研究紀要(平成29年12月)、教育課程・指導計画(平成31年3月)
205	4-2-15-3①h	15-3	附属小学校広島修学旅行報告	平成30年8月30日教員会議資料
206	4-2-15-3①i	15-3	附属学校園教員関連論文・報告一覧(平成28年度～平成30年度)	総務課作成
207	4-2-15-3②	15-3	Certificate of Membership UNESCO Associated Schools Network(幼稚園)	Certificate of Membership UNESCO Associated Schools Network(July 2018)
208	k1	個性の伸長	平成28年度 機能強化経費「機能強化促進分」における評価結果	平成28年度 機能強化経費「機能強化促進分」における評価結果
209	k2	個性の伸長	NHKニュース「国立大交付金 最高評価9校は18%増 一方で24%減も」	「NHK NEWSWeb」ウェブサイト
210	k3	個性の伸長	2017年度国立大学法人運営費交付金の重点支援の評価結果	2017年度国立大学法人運営費交付金の重点支援の評価結果

	資料番号	中期計画番号	資料名	出典
211	k4	個性の伸長	2018年度(平成30年度) 国立大学法人運営費交付金の重点支援の評価結果	2018年度(平成30年度) 国立大学法人運営費交付金の重点支援の評価結果(文部科学省)
212	k5	個性の伸長	2019年度(平成31年度) 国立大学法人運営費交付金の重点支援の評価結果	2019年度(平成31年度) 国立大学法人運営費交付金の重点支援の評価結果(文部科学省)

